

# みよこ いしづ

## 創刊号

港第14自治会世帯数 H25.4.1現在 2,485世帯

1町内会	636世帯	5町内会	82世帯	9町内会	190世帯
2町内会	473世帯	6町内会	80世帯	10町内会	182世帯
3町内会	137世帯	7町内会	237世帯	11町内会	265世帯
4町内会	67世帯	8町内会	64世帯	12町内会	72世帯

### 平成25年度基本方針

1. 防災・交通安全等、命と安全に関すること
2. 隣組や若者の力も結集した自主防災組織の育成強化
3. 住民の親睦と教養及び体育の向上に関すること
4. 住民の福祉の増進と生活の向上に関すること
5. 土木、衛生、社会施設の整備改善に関すること
6. 青少年健全育成活動に関すること
7. 自治会内の諸団体及び各種委員との協力に関すること
8. その他目的達成に必要なこと

## 地域の安全と人々の命を守る

### 自治会の活動が身近な存在に 自治会広報誌創刊号発刊にあたって

港第14自治会 会長 丸山昭夫

港第14自治会の会長をお受けしてから三期目になりました。

会長一期目の総会での挨拶をよく憶えています。

「私達の地域は、駿河湾に面し、富士山も眺められて、温暖で風光明媚、そして小川港もあり、海の幸にも恵まれた大変良いところです。

反面、東海地震、津波が起こる可能性の負も負っている地域であることも直視しなければなりません。」

会長になった年の8月11日、震度6弱の駿河湾沖地震が起きました。

そして、二年前の3月11日、東北の三陸地方に、未曾有の規模の東日本大震災が起き、2万数千人の尊い人命と多くの家屋が一瞬にして、津波に流されました。

五年前の会長挨拶が、早期に現実を帯びて追って来よ

うとは予想外でした。

情勢は、私に美しい我が故郷と人々の命を守ることに微力を尽くさなければならないと命じております。

私が、今回広報誌の発行をしたいと思った直接の動機は、二つの理由からでした。

一つは、回を重ねる毎にその大切さが増してきている防災訓練の参加者が、ここ二年間減少してきていること。二つ目に、交通事故、飲酒運転の件数が焼津市の中で多いこと。このことに警鐘を鳴らしたかったからです。二つとも、幸せな生活、尊い命にかかわる大切なことだからです。

広報誌が、家族みんなで読まれ、自治会を身近な存在に感じていただけるものに、と願っています。



# まだまだ意識を高めたい防災訓練

## 9月1日総合防災訓練は管内8箇所では1,953名が参加



港第14自主防災会は、9月1日（日）1,953名が参加し、港第14自治会内の各避難地等への避難訓練を行った後、6ヶ所の訓練会場で防災・避難所に関する訓練が行われました。

避難場所として、新たに石津浜避難タワーと石津保育園が加わり（平成26年3月には、前の川公園の避難タワーが完成する予定）、避難場所も細分化され、各地域は、少人数の防災委員の指導・誘導による訓練になりつつあります。

今回の訓練は、第1ステップは、普段からの自助を中心とした家庭内の防災対策（8月初めに各家庭に配布）、第2ステップでは、自助・共助を中心とした避難ビル等への避難訓練、第3ステップは、共助を中心とした防災全般の訓練・避難所訓練等が各会場で行われました。訓練参加状況は、3・11後の避難訓練の2,505人をピークに毎回減少し昨年12月の訓練参加状況は1,793名と東日本大震災前の状況に戻りつつあり、防災訓練の意識低下が心配されます。

避難箇所の細分化、防災内容が多岐に亘り、防災訓練が多様化する状況下、今後の訓練の重点をどこに置くのかを皆様と共に考えて行きます。

避難場所	避難町内会	訓練参加者数
石津浜避難タワー	4・5	270
県立焼津青少年の家	5・6	
港小学校	7・8・11	419
石津保育園	2・9	311
石津西公園	2・3	307
会下の島避難タワー	10	296
小川小学校	10・12	
石津西公園	1	350
	合計	1,953

# さらに防災・減災に



石津浜避難タワー完成に集まった地区住民（H25.4.28）



## 初めての企画「避難所運営勉強会」を開催

このたび、焼津市社会福祉協議会・焼津市災害ボランティアセンター事務局の協力により、石津コミュニティ防災センターで「避難所運営勉強会」（HUG）を8月10日（土）に開催しました。

参加者は自治会役員・町内会長・防災指導委員、婦人部・保健委員の総勢37名が、5グループにわかれて、避難所の疑似体験をしながら、避難所開設の勉強会をしました。協力をいただいた「ボランティア」に、地元の方がいて心強く感じました。

## 今年度は100名が救急短期講座受講

日本赤十字社の協力で「救急短期講座」が6月30日（日）に、石津コミュニティ防災センターで開催し、午前・午後の2回に分け延べ100人が受講しました。

心肺蘇生法・AEDの使用法をはじめ、病床者の簡易搬送方法などを受講生が相互に組になり、熱心な指導のもと、受講者の積極的、かつ真剣な眼差しは、非常に嬉しい光景でした。

本講座は、年間計画に基づき、毎年開催します。より多くの地区住民の皆さんの受講を期待します。継続的な受講によりしっかり救急法を身につけて下さい。



# これまでの着実な災害対策を活かす 自主防災組織体制づくりに取り組む

自主防災については、まだまだ残されている課題も多くありますが、役員の方の気持ちを一つにまとめること、地域住民の自主防災意識を高めること、この二つを重点に平成20年から行って来ました。

## 1. 役割担当の強化

- 1) 1年目、12人の町内会長の内、防災担当を1名から3名にしました。
- 2) 2年目、町内会長以外から3名の副自治会長を選



出し、そのうち1名が自主防災担当の自主防災委員長となり、自治会全体の自主防災活動の推進役となっています。

## 2. 焼津市に津波避難施設の申し入れ

3・11の東日本大震災直後14自治会全世帯にアンケートを実施し津波避難訓練の中からの問題点をまとめ、住民が安心して日々過ごすよう、早期に避難施設（タワー）等4箇所の築造、公民館の建替え、防潮堤の嵩上げを要望しました。

あわせて旧小川港の一部埋め立て、水門設置の検討をお願いしました。

## 3. 水門設置への活動

- 1) 平成24年7月15日、県漁港管理事務所から津波対策として、旧小川港の周りに1～1.5mの胸壁を設置したいとの説明がありました。  
住民からは、旧小川港の入口に水門を設置する方が効果的との発言が多数の拍手で確認されました。
- 2) 焼津市へ水門設置の要望書提出。
- 3) 水門については小川第13自治会と意見交換会実施。
- 4) 港第14自治会主導により、旧焼津港、旧小川港に関係する5つの自治会で津波対策の意見交換会実施。
- 5) 各自治会から3名を選出し津波対策の小委員会を継続することになりました。

# 強い自治会をめざす

## 港第14自治会あげて

## 「東日本大震災被災地・石巻市の尊い教訓」を学ぼう

地域防災講演会「3.11石巻での体験を語る」を11月16日開催



港第14自治会では、昨年11月に東日本大震災被災地（南三陸町、石巻市、名取市）へ防災研修に行き、津波被災地の現場を見ながら、大災害を体験された関係者からの説明を受け、テレビや新聞で見るとはまったく異なることの実感と、津波の怖さを知ることが出来ました。

その前後に、丸山会長が石巻市を訪問し港地区内での講演依頼を重ね、このたび、東日本大震災被災地石巻市の尊い教訓を学ぶ講演会が実現する運びとなりました。

東日本大震災から2年半が過ぎ、被災地の状況は……。甚大な被害を受けた宮城県石巻市から関係者が港小学校体育館に来られ、貴重な体験を語っていただきます。



- |      |                               |      |  |
|------|-------------------------------|------|--|
| ■日 時 | 11月16日（土）<br>開場：14時30分 開演：15時 | ■講 師 | 及川 衛さん（元石巻市議・前石巻市町内会連合会長）<br>吉田忠美さん（現石巻市町内会連合会長）<br>安倍秀一さん（石巻市復興政策部地域協働課長） |
| ■会 場 | 焼津市立港小学校体育館                   |      |  |

主催／港地域づくり推進会 共催／港第14自治会・港第23自治会 後援／焼津市自治会連合会  
問い合わせ／港地域づくり推進会事務局（港公民館）☎054-624-8855

## ストップ・ザ・交通事故 地域ぐるみで交通安全宣言

### 「やめざ〜よ・飲酒運転」「交差点は右左確認」

これは交通安全期間中に港第14自治会が掲示している大看板の標語です。

昨年一年間の港第14自治会の交通事故発生状況は、「飲酒運転 3件」「死亡事故 0件」「出会い頭・追突事故 52件」「その他人身事故 31件」（焼津市生活安全課発表）で焼津市内の自治会のなかで最下位という最も悪い成績でした。今年も飲酒運転や交差点事故が後を絶ちません。

飲酒運転は犯罪です。「酔いがさめたと思い運転してしまう」「コップ一杯くらいだからと運転してしまう」等、軽い気持ちで考えることはやめましょう。「飲んだら運転しない」という当たり前のことを守りましょう。また、事故の中でも交差点事故が非常に多く発生しています。最近、吉永街道と交わる新道（蔵珠院横 写真箇所）で、出会い頭等の交差点事故が頻繁に起きています。

現在、自治会では、この交差点において、定期的な立哨をして注意を喚起していますが、止まれの標識を無視する人、止まれをきちんと止まらずに徐行しながら走行する車、右左確認を怠ってしまう人等、多数見受けられます。交差点事故を起こさないためにも、停止はしっかり止まり、しっかり右左確認してから発進して下さい。自転車・歩行者も同じです。

事故根絶のためには、私達、地区住民一人ひとりの交通安全に対する強い意識を持つことが大切です。

港第14自治会では、これからも、町内の皆様が「絶対に事故は起こさない」と、常に自覚できる啓発活動を積極的に呼び掛けていきます。



4月以降18件の事故が多発している蔵珠院横交差点



## 活かそう 交通安全教室の学び



港第14自治会では、秋の全国交通安全運動（9月21日～9月30日）の期間にあわせ、9月28日(土)「交通安全教室」を港公民館において、約230名の参加のもとに開催しました。

当日は、各町内会の皆様からの交通安全宣言書への署名4,242名分を焼津警察署 西島課長に手渡し、私たちの決意を表明いたしました。

また西島課長の「交通安全講話」では、参加者の皆様が真剣に耳をかたむけていました。後半は交通安全協会の指導員のもと「体験型教室」を行い、子供から大人まで、はじめての体験に驚いたり感心したりで、意義ある交通安全教室を学び、交通事故撲滅を誓いました。



### ワンポイント豆知識 シリーズ1

#### 緑茶の効用

静岡の名産といったら、「お茶」と答える人も多いですね。そのお茶の効用を調べてみました。何気なく毎日飲んでいる“緑茶の効用”知っていましたか？

お茶の味には苦味と甘味と渋味があります。苦味の正体はカフェインで、抹茶には4%、玉露に3%、煎茶は2から3%、番茶1%の割合に含まれているそうです。カフェイ

ンは強心、利尿、疲労回復、脳の中枢神経を興奮させる作用があります。甘味はテアミンとグルタミン酸が主で、その他少量のショ糖、果糖、ブドウ糖などが含まれます。渋味はタンニンで、茶の味はこのタンニンがどれだけ溶け出すかによって異なります。このタンニンはアルカリ性ですから血液の酸性を防ぐ解毒作用があります。ビタミン類ではビタミンCが豊富でしかも熱に強い安定性があります。

〈参考文献：光文書院 話のタネになる本〉



## さあ、出かけよう 住み慣れた地域で支え、 学びあう「ミニディサービス」

今、私たちの港第14自治会には、「ミニディサービス」が「石津コミュニティ防災センター（平成9年1月開設・原則毎月第3水曜日9:30～11:30）」と「石津祐心館」（平成10年6月開設・原則毎月第4水曜日9:30～11:30）の二つの会場でそれぞれ開設しています。

「ミニディサービス」って一体なに？・・・こうした取り組みの始まりは、昭和60年代に入り、住み慣れた地域で支え合う「地域福祉の推進」の一つとして高齢者を対象とした「介護予防」から始まった取り組みです。そして、今日では、「地域の居場所」として、また「健康長寿社会を学ぶ場」「共生社会実現に向けた居場所づくり」として県内外で広く取り組まれています。地域によっては「ふれあいいきいきサロン」「S型ディサービス」とも言われています。

高齢者と地域ボランティアの皆さんが共同で運営し、楽しい仲間づくりの活動をする「ミニディサービス」は、住み慣れた地域から、高齢者を孤立させることなく「いつまでも、元気で生き活きと、自分らしい暮らしにつなげていただく」活動です。

高齢者や地域のボランティアとの楽しい出会いによる会話と笑い、そして、なによりも、定期的に外出する機会を持つ楽しみがこの活動にはあります。さあ、出かけてみませんか「ミニディサービス」。



みんなで輪になって楽しい踊り



あなたも参加しませんか 地域ボランティア

### ●平成25年度上半期 参加状況

（注）ボランティア等とは地域ボランティア、ゲスト（講師）、民生委員、自治会役員等を含む

会場	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	ボランティア等	高齢者	ボランティア等	高齢者	ボランティア等	高齢者	ボランティア等	高齢者	ボランティア等	高齢者	ボランティア等	高齢者
石津コミセン	23	13	47	15	18	13	14	13	13	12	14	13
石津祐心館	18	25	64	19	32	18	22	20	19	33	26	17

### いしづの歴史 再発見 Vol.1

私たちの住んでいる町 石津。この石津の歴史をシリーズで紹介することによりいろいろな石津を発見してみたいと思いませんか。

第一回は、石津の成り立ちから現代までを紹介します。

そもそも「石津」は、志太平野という扇状地の末端に出来た広大な湿地帯であり、その湿地帯の中の「シマ」と呼ばれる微高地に人が住みついたのは、南北朝から戦国期にかけてと言われていました。史料上に「石津」の名が伺えるのは、天文18年（1549年）「今川義元朱印状」が初めてであり、永禄3年「今川義元船役免許判物」では、石津湊は今川領国内での重要な湊の一つであったことが伺えます。

江戸時代に入ると、田中藩領として支配されていた時期が長く、藩の米を納めていた蔵の存在が「前の川」にかかる「蔵前橋」の名によっても知ることが出来ます。

また、木屋川を使って大井川上流の木材を江戸に運搬するため小川（和田）は重要な港であったと言われていました。石津の歴史にとって、大きな変化をもたらしたのが、安政の大地震（1854年）であったと言われていました。

この大地震によって、それまで湿地帯であった付近が隆起し大地となり、この大地に対して、村人たちが開墾を行い、耕地とした土地は農民に払下げられ、未墾地も開墾を条件に「石津共有」とされ、今日の「共栄会」の基礎となったと考えられます。

また、明治17年に「石津漁業組合」が成立し、漁業への依存が一層大きくなり、明治22年に「小川村」に合併し、その後「小川村」から「小川町」を経て、昭和30年に「焼津市」に合併を果たしました。

現在地名の上では、「石津」は、土地区画整理を伴う町名変更等によって、「石津」の他に「石津港町」「石津向町」と町名表示されているところも、もともと「石津」です。

（参考文献：石津の民俗（静岡県史民俗調査報告書第18集）



太字の地名は「シマ」と呼ばれた集落の中心となった地区

# 地域の絆さらに 港第14自治会体育大会

## 43回の伝統行事でさわやかな汗

台風23号の接近により、一週間延期となった「第43回焼津市港第14自治会体育大会」は、9月半ばの三連休中日の9月22日(日)、開催日の変更とあって多少心配しましたが、12の町内会から、幼児から長寿者まで約1,000名余の皆さんが参加して盛大に開催されました。

自治会年間行事では、最大の伝統行事である「体育大会」。

台風通過の影響で一週間延期した「体育大会」でしたが、それでも各町内会は、こうした時こそと結束を強硬にして当日に臨みました。今年も「新田バンド」には、大会を大いに盛り上げていただき、軽快な演奏曲に合わせて入場行進から始まりました。

今年の体育大会のスローガンは「頑張るのは今でしょ！」体育委員先導のもと、1町内会から12町内会まで、ホットにそれぞれの町内会を紹介するアナウンスとともに、軽やかな足取りでグラウンドを一周。

各町内会のテントからは、年配者の高まる応援の拍手。応援する人がいて、競技に出る人がそれぞれいて、初めて「体育大会」は盛り上がります。

開会式では、力強い来賓からの挨拶もいただき、昨年度優勝した第11町内会の児童が元気に選手宣誓。その後、さわやかな秋空のもと、参加者がグラウンド一杯に広がり、思い思いに準備体操が繰り広げられ、順調にプログラムがスタートしました。

和やかに、そして力強く頑張っている数々の競技種目を写真で紹介します。さあ、来賓が楽しみですね。

港第14自治会 第43回 体育大会 町内会結果表											
町内会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	5	6	0	2	4	1	2	3	5	0	1
2	4	1	2	3	0	1	4	2	3	0	2
3	2	1	0	1	3	0	2	4	2	4	0
4	3	4	0	1	0	2	1	0	3	4	0
5	0	3	4	0	1	0	2	1	0	3	4
6	4	0	7	0	0	0	6	0	9	0	5
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	4	6	3	7	12	9	1	10	5	11	2
9	4	6	3	7	12	9	1	10	5	11	2



さあ、いよいよ入場行進です



元気いっぱいの行進を見守る来賓・大会役員



ほほえましい入場行進に思わず拍手



力強く選手宣誓



見事なバトンタッチ



お姉ちゃんたちに手をひかれて幼児さん登場



見ごたえあり、綱引き優勝戦



年代別リレー出場は5チーム 優勝は第3町内会





## 焼津市地域対抗スポーツ大会 「長縄跳び」「玉入れ」に心一つ

平成25年度焼津市スポーツ大会が、5月26日(日)に、シーガルドーム（焼津市総合体育館）において、自治会対抗の「長縄跳び」「玉入れ」の二種目が開催されました。

集団種目であるため、参加者が心一つになった大会でした。



## 第1回町内交流スポーツ大会 種目はドッチビー



6月23日(日)に、「ドッチビー大会」が開催されました。この種目は、少々スピードが加わった「ニュースポーツ」ではありましたが、和気あいあいとした雰囲気のもとで繰り広げられました。

# ふれあい交流の輪 ニュースポーツで長寿社会生き生き



## 第2回町内交流スポーツ大会 種目はペタンク

10月13日(日)に、「ペタンク大会」が開催されました。この種目は、シニアタイプの「ニュースポーツ」です。和気あいあいとした雰囲気のもとで繰り広げられました。



自治会各種ふれあい交流スポーツ行事で顔と顔が見え、笑顔とコミュニケーションが交うコミュニティづくりをめざすために、さあ、あなたも積極的に参加しましょう。ふみ出す勇氣、その一歩

詳しくは各町内会体協委員へ

## 地域の福祉を担う 民生委員児童委員活動 改選期を迎えてひとこと

港地区民生児童委員協議会  
会長 石間祐喜雄



皆さん、「民生委員児童委員」と聞いて「それってなにをする人？」と、ほとんどの方がお思いでしょう。実は、私も、全く理解しないまま自治会長、町内会長の推薦を受けて、断りきれずにお引き受けして早や12年になります。

このたび、広報誌の創刊号発行に「民生委員児童委員活動紹介」の機会をいただきましたので、私たちの日頃の活動を紹介します。

民生委員児童委員は、社会奉仕の精神（誰もが安心して暮らせる地域づくり）のもと、地域において、福祉の援助を必要としている皆さん（高齢者、心身に障害のある人、生活困窮者、社会的支援を必要とする人たち等）に対して、常に住民の目線、住民の立場に立った相談相手になり、必要に応じて各関係機関・団体等（福祉事務所、社会福祉協議会、地域包括支援センター、その他の各福祉機関・団体等）につなぐパイプ役となり、連携して援助活動をする、

いわは、地域の身近な相談相手であり、地域福祉の推進を担うボランティアです。福祉のボランティアですが、身分は、非常勤の公務員扱いで、民生委員児童委員法の下での活動であり、勝手な言動は許されません。特に、活動の中で知り得た個人情報等は、守秘義務が課せられていますので、決して他へ漏れる心配はありません。

また、民生委員児童委員と援助を必要とする相談者との関係は「何をしてやる、してもらおう」と言うのではなく、人として対等な関係であり、一緒に最適な方法を考えていきましょう、と言う基本的な人権を尊重した上での活動となります。これが民生委員児童委員の基本的な役割、活動と心得ております。

また、民生委員児童委員協議会として、港地区地域福祉推進委員会及び地域づくり推進会、その他多くの各種事業にも積極的に参加、協力し、明朗で健全なコミュニティづくりにも努めています。

現在、当地域では、港第14自治会より12名（民生委員児童委員11名、主任児童委員1名）と港第23自治会11名（民生委員児童委員10名、主任児童委員1名）の総勢23名が厚生労働大臣より委嘱を受けて「港地区民生児童委員協議会」を組織をして活動しています。任期は、一期3年で、今年が改選期となっています。

# 各家庭ごとのゴミの分別で自治会活力を活性化

力を合わせてゴミの減量化を！

* 焼津市の家庭から出る年間のゴミの量	約 2万7千2百トン
* 燃やすゴミ1トン当りの処理費	約 1万6千円
* 年間の処理費	約 4億3千5百2拾万円
* 燃やすゴミ1トン当りの運搬費	約 1万円
* 年間の運搬費	約 2億7千5百万円
<b>ゴミ処理にかかる総経費</b>	<b>約 7億1千2百万円</b>



自治会別組成分析調査結果 (平成24年度)

全自治会平均	生 ゴミ	リサイクル可能な紙類	リサイクル可能なプラスチック類	その他
	45.2%	15.4%	8.1%	31.3%

※ゴミの中に混入されているリサイクル可能な紙類、プラスチック類は、各家庭で分別して不燃物収集日に出すようお願い致します。

皆さんの努力によって、  
ゴミの量は  
まだまだ減少できます。

②不燃物収集日に出される、古紙(雑誌・ざつがみ・新聞紙・ダンボール)の量が減少しています。

	古紙回収数量	売却額
H23.4月～H24.3月	135,580キロ	1,241,760円
H24.4月～H25.3月	114,277キロ	1,057,875円
前年比較	-21,303キロ	-183,885円

※古紙回収売却費は、自治会の貴重な収入源となっており、各町内会に毎年分配されます。古紙は、不燃物収集日に出すようお願い致します。



## ご存知ですか 石津共栄会

今から159年前の安政の大地震(1854)により見取場(水天宮西側)一帯の湿地が隆起したことがきっかけで、村をあげて開墾し土地の払い下げを受けました。払い下げられた土地は「よし組」と称する住民組織が更に開墾を続け、開墾地は『石津「共有」』の財産となり、昭和22年(1947)4月、石津の居住者が「よし組」発足時の150戸から800戸に増え、民主化時代を迎えたことにより、「よし組」を解散し、「昨日石津人になった者にも平等の権利を与える」という大英断により、共有財産を生え抜きだけでなく、全ての住民の権利とすることになり、『石津共栄会』が発足しました。その後、昭和54年1月財団法人化、平成22年7月『認可地縁団体石津共栄会』となり、現在に至っています。

『地縁団体石津共栄会』は、石津共栄会規約に則り運営され、事業及び費用などは毎年開催される総会において審議、運営に必要な収入源は土地の貸付料収入が主なものとなっています。

また、事業支出の主なものは、自治会体育大会助成、さわやかクラブ・子供会・消防団活動助成、公会堂維持管理費などです。石津共栄会は、全ての石津住民のための共有財産を運用し、地域貢献をしています。(参考文献「石津共栄会誌」)

## 平成25年度後期主要行事のご案内(9月～3月)

### スポーツ交流事業

ベタンク大会(町内会対抗)	10月13日(日)	港小体育館
メディシンボール・綱引き大会(地域対抗)	11月17日(日)	市総合体育館
グラウンドゴルフ大会	1月予定	
ファミリーバドミントン大会(町内会対抗)	2月16日(日)	港小体育館

### 防災事業

焼津市地域防災訓練	12月1日(日)	町内会指定の訓練実施場所
焼津市津波避難訓練	3月9日(日)	町内会指定の避難訓練場所

### 地域づくり事業

港公民館まつり	延期(日程検討中)	
明るい街づくり大会	12月7日(土)	港小体育館

## 編集後記

さまざまな地域の課題を抱える中で、このたび丸山会長から「自治会広報誌発行」の提案があり、広報委員5名が選任され、「企画書」をもとに、5月から「広報委員会」を設置して、検討を重ねました。県内各市町からの情報収集と共に、精力的な議論を積み重ね、自治会関係各部門の協力をいただき、ここに焼津市港第14自治会広報誌「みなといしづ 創刊号」が誕生しました。

多くの話題と地区住民の顔が、これからも紹介できる企画に努めてまいります。

創刊号発行にあたり、広報誌名「みなといしづ」の題字を、第4町内会丸山伸代(麗華)様が快くお引き受け下さいました。ここに感謝申し上げます。

広報委員 櫻井昭之 大澤雅晴 伊藤敏行  
植村悦也 平田 厚



# みなといしづ

## 第2号

港第14自治会世帯数・事業所数

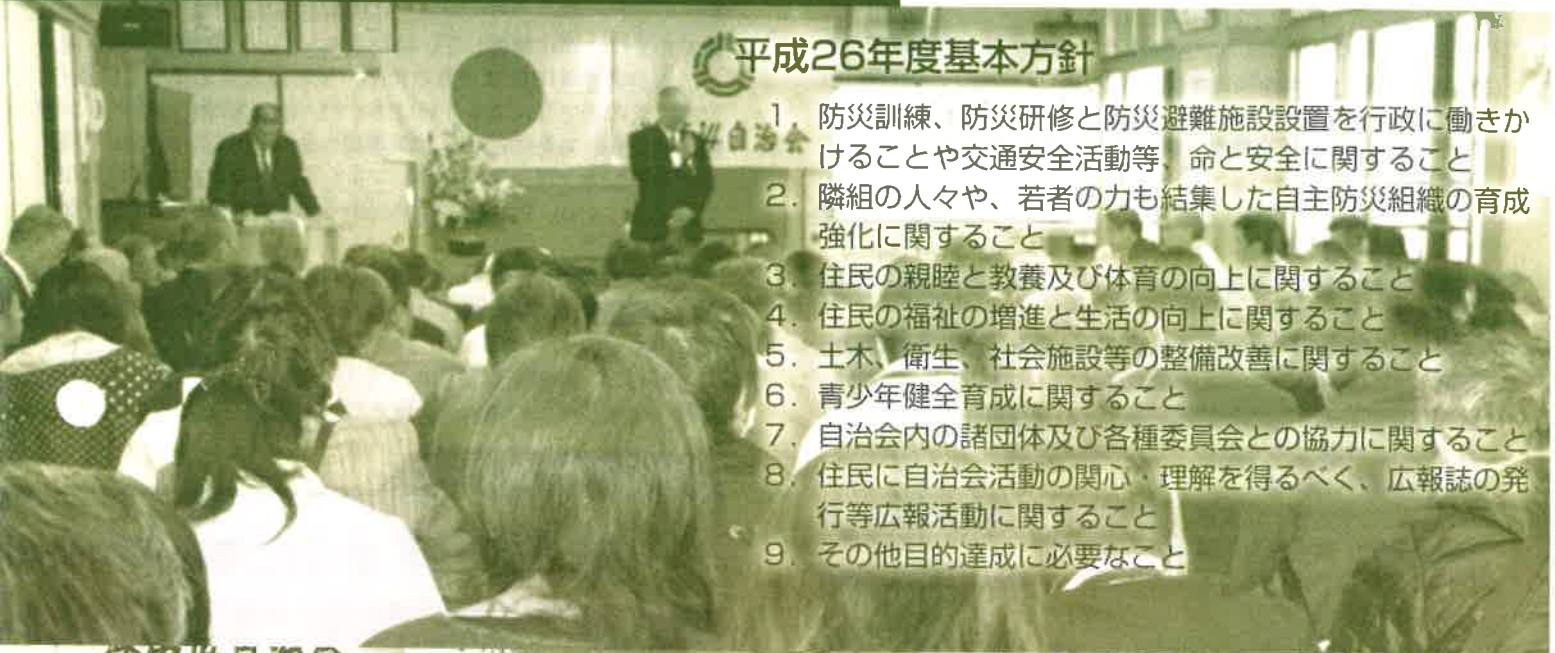
H26.4.1現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	619	35	7町内会	223	2
2町内会	461	4	8町内会	61	11
3町内会	138	15	9町内会	186	2
4町内会	66	5	10町内会	174	21
5町内会	78	1	11町内会	270	9
6町内会	77	0	12町内会	68	3

世帯数計2,421 事業所数計108

### 平成26年度基本方針

1. 防災訓練、防災研修と防災避難施設設置を行政に働きかけることや交通安全活動等、命と安全に関すること
2. 隣組の人々や、若者の力も結集した自主防災組織の育成強化に関すること
3. 住民の親睦と教養及び体育の向上に関すること
4. 住民の福祉の増進と生活の向上に関すること
5. 土木、衛生、社会施設等の整備改善に関すること
6. 青少年健全育成に関すること
7. 自治会内の諸団体及び各種委員会との協力に関すること
8. 住民に自治会活動の関心・理解を得るべく、広報誌の発行等広報活動に関すること
9. その他目的達成に必要なこと



港第14自治会



平成26年度港第14自治会定期総会にて

## 地域の安全と人々の命を守る

### 平成25年度の成果と課題解決に向けて

～自治会一丸となって、更なる防災対策の強化に取り組もう～

港第14自治会 会長 丸山昭夫

平成25年度の我が自治会の活動を振り返った時、特筆すべきものがありました。待望の津波避難タワーが2基完成したこと。25年4月、石津浜公園内に、本年2月には、石津向町の前の川公園内にも完成しました。このタワーは、1基800人位が避難可能です。また、25年8月には、石津保育園園舎が竣工しました。当初、市は2階建を計画し、設計図も出来上がって説明を受けました。園児たちの安全と地域住民が避難できる様、少なくとも3階建て屋上には避難スペースを設ける様お願いをして実現したものです。

津波避難タワーの実現は、3・11後の避難訓練において、今迄の1000人を上回る2500人が参加をし、我が地域は、如何に避難施設が少ないかが明らかになり、地域の安全確保の為に、避難施設の必要性を要望書にまとめて、市に強く申し入れたことが実を結んだのだと思います。

25年11月には、石巻市から3人の講師を迎えた防災講演

会の開催は、23自治会と共催でしたが、港小の体育館には、650人が集まり、3・11の実体験に基づく貴重なお話を聞くことが出来ました。講師は、多くの犠牲者を出した反省点として、「まさか、大きな津波はこないだろうと、自然の力を甘くみたこと」そして「津波対策の備えが不十分だった」と何度も強調されました。自治会の最優先課題である、「人々の命と地域の安全を守る」活動で、成果をあげる事ができたことは嬉しいことでした。

自治会の体育大会が約半世紀にわたって継続して開催されていること、初めて広報誌「みなといしづ」が発刊されたことも特筆すべきことでした。

防災対策は、道半ばです。就中、旧小川港入り口への水門設置は地域の安全の為に非常に大事なことです。県、国の考えもはっきりせずその実現化のため、今年度も地域一丸となった頑張りが必要だと思っています。

**大澤さん**：今日は、これまでの自治会事業・活動を振り返りながら、それぞれの立場から、これからの「港第14自治会」の発展に向けて、大いに語っていただきます。

## 基本方針を着実に実践する取り組みに期待

**丸山さん**：私たちの自治会は、これまで多岐にわたる様々な諸活動を地域をあげて取り組んできました。さらに、地域の発展のために、9つの方針を申し上げます。

- (1)防災対策事業 年3回の訓練の徹底、啓発活動(防災講演会を活かす、行政への積極的な提言、学校、隣接自治会との連携強化)
- (2)社会福祉事業 港地区地域福祉推進事業、2か所のミニサービス活動支援、各種募金(日赤、赤い羽根、歳末助け合い等)・啓発活動
- (3)環境衛生事業 不燃物・古紙回収呼び掛け、ごみ減量の徹底、河川海岸等清掃活動
- (4)交通安全対策事業 交通事故多発地区の対策、啓発活動(交通安全教室、各戸世帯へのステッカー配布)の取り組み
- (5)スポーツ行事事業 地域の絆を深める伝統ある体育大会行事の開催、町内交流スポーツ大会等の開催
- (6)公民館機能を活かした地域拠点事業 公民館まつり、しおかぜスクール、木屋川ボートレース大会等の支援
- (7)市行政事業への協力
- (8)自治会内他団体等との連携 地区民生委員児童委員協議会、保健委員活動、水天宮・八幡宮行事等の協力
- (9)自治会広報誌の発行による自治会活動への参加と地区住民間をつなぐ取り組み

## 分散化した避難所をいかにつなぎ、機能を発揮できる体制づくり

**嶋さん**：昨年から今年にかけて、新設の避難施設が出来上がり緊急一時避難場所として、浜の避難タワー、青少年の家、港小学校、石津保育園、前の川避難タワー、13自治会の会下の島避難タワー、小川小学校、石津コミュニティー防災センター、焼津市消防署4階、それに新たに23自治会の下小田中町の避難タワーと10箇所になりました。

東日本大震災以前は、浜、港小、石津コミュニティー防災センターの3箇所での防災訓練から、3.11以後は、津波避難訓練を中心とした10箇所の防災訓練となり分散化しました。

このように訓練(津波避難)が細分化されたことにより、組織と内容の見直しが必要になっています。

組織的には、防災指導員(女性防災指導員配置の検討)だけでなく、組長さん(組長が防災組織の原点)、地区住民の協力や、学校との連携による児童生徒の積極的な訓練参加で成果が期待できる訓練となります。津波避難訓練だけでなく、防災全体(避難訓練以外)の訓練を行うことで、地区全員の訓練意識が高まります。

大きな町内会では、防災指導員を増員していく必要があります。

## 住民のさらなる自覚による交通安全対策の徹底

**伊藤さん**：昨年度(平成25年度)交通安全委員としての活動を振り返って見ますと、私たち自治会活動として出来ることは、地域の人達が交通安全に対して、しっかりした意識を持ってもらえるような活動をする事でした。

港第14自治会では、毎月10日に町内12箇所以上で交通安全を呼びかける立哨や、自治会の各イベントにはのぼり旗の掲揚、そして、回覧にて、その都度、交通安全の訴え、交通安全教室の開催等啓発活動に取り組んでいます。



しかしながら、なかなか交通事故は減少していません。関係機関からの資料を分析しますと、出会い頭、追突事故等交通ルールを守らずに起きるものがほとんどです。事故は双方に多大なダメージをあたえ、時には、家庭生活にまで影響しかねないことを真摯に受け止めなくてはなりません。

港第14自治会は、交通安全運動の啓発活動として年一回、9月に交通安全教室を開催しています。これまで多くの人達に参加していただきました。昨年度を振り返ると、自治会主催の教室であるため、十分な成果に至っているか、今後、どのような企画をすれば多くの人達が参加し、なおかつ意義を感じられるものになるかの課題もあります。H25年12月1日から自転車走行の法令がかわりました。しかし、交通立哨などで感じることは、改正後の法令が中々浸透されず守られていないのが現状です。

交通安全教室の内容も、今後「正しい自転車の乗り方」、「危険運転の模擬運転」等、実技などを取り入れた企画が検討課題となっています。

とりわけ、啓発活動を強化するとともに、今まで以上に行政、警察、地域住民との連携が必要不可欠です。

## 特集：紙上座談会

### 地域の絆 さらに深めるための

### 基本方針をさらに実現

このたび、平成26年度 港第14自治会定期総会が終わった5自治会事業・活動の各領域において、日々献身的に自治会活れまでの自治会事業・活動を振り返りながら、平成26年度のためには、何が求められるかをテーマに、大澤雅晴さん(自治会)なお、紙面の都合上、要点のみを広報委員会の責任において、



## 環境問題の解決は、まず家庭から始まる

**山中さん**：日常的に身近な環境問題は「不燃物の出し方」や「ゴミ出し」にあります。

「ゴミ処理」に費やす多額な経費は、市民の収める貴重な税金からまかなわれています。

「ゴミ問題」は、今後ずっと続く課題です。こうした身近な取り組みは、まず家庭から課題解決することが大切です。これからも、巡回指導を行いながら、積極的に啓発活動を進めていきます。昨年度開催した「ゴミ減量説明会」の参加は98名でした。

さらに、多くの参加者により、「ゴミ問題」を一緒に考えていきたいものです。併せて、各町内会における「可燃ゴミ収集箇所における啓発活動」にも取り組んでいきます。

今後は、自主防災組織と同じように、「環境問題」の取り組みも、役員だけの活動ではなく、組織的に取り組む体制が必要です。

## まずは、地区内の福祉ニーズを 把握していくことから始まる

**石間さん：**いま、高齢者問題は避けて通れない状況にあります。高齢者、障害者、児童等取り巻く諸問題の解決は、決して、民生委員活動だけで、地区内の福祉問題を解決できることではありません。関係行政の資料（平成26年4月1日現在）によると、静岡県の高齢化率が25.9%、焼津市は25.8%、そして当自治会管内では27.9%と高まっています。

しかし、自治会の各地区によっては、抱える福祉問題が集中している傾向にあったりして一様ではありません。まずは、身近な生活圏域での支え合いが求められています。地域の住民だけではこうした福祉問題が解決できない場合に、例えば高齢者問題であれば、管内には、南部と中部の2つの地域包括支援センターがありますので、気軽に相談をすることです。高齢者問題について、これまで民生委員活動の中で「実態調査」を実施しています。こうした貴重な調査結果を、これからの地域活動に大いに活かしていかなければなりません。地域の皆さんには、さりげない見守りや声かけの心掛けを身近なご近所ですてほしいものです。今後は、これまで以上に、自治会と地区民生委員児童委員会が連携をしていくことを期待します。

## みんなで声を掛けあい 健康予防を大切にしていくこと

**曾根さん：**保健委員会の主な活動は、地域の皆様の健康づくりを進めるために、特定健診やガン健診等のお誘い、健康づくり講演会、結核予防講演会、ガン予防講演会等の啓発活動です。具体的には、自治会行事や公民館事業の公民館まつりや、健康ウォーキングの行事を通じて、地区の皆さん一人一人が、いかに健康に関心をもつかの啓発活動の重要性を感じます。県内市町ごとのデータから、焼津市は、男女とも、糖尿病予備群、高血圧症有病者が多いという結果が出ています。特に、心疾患、脳血管疾患、糖尿病の3疾患は、県平均と比べて高く、伸び率も大きいとされています。残念なことに、焼津市の特定健診の受診率はとても低いとされています。

自覚症状が出てからでは手遅れになることがあります。

地域のお仲間、家族と日常生活の中で「健康」について話し合う機会を持ちたいものです。



## 「いしづパワー」発揮の見せどころ

していく課題解決を探る

月7日、石津コミュニティ防災センターにおいて、これまで、動に取り組みされてこられました皆さんに出席をいただき、ご基本方針をさらに、港第14自治会の発展のために取り組むた会参与・10町内会)の司会で座談会を開きました。編集をいたしました。



## 主体的に地域活動に参加する心構えの重要性を感じる

**増田さん：**婦人部の役員になり、自治会組織の中で婦人部としてどのような活動が出来るのか、いろいろと検討もしてきました。

組織的にいかに活動していくべきかが大きな課題でもあります。婦人部の主な活動は、自治会行事に協力することを中心に今日に至っています。地域の子供たちを祝う七五三行事にも取り組んでいます。女性の立場では、いろいろと生活上制約がありますが、自治会活動に関わり、多くの方々との交流で人脈もできています。今後の地域の諸行事の参加に、いかに婦人部が主体的に参画できるか今後の課題と感じます。



## 地域の絆を深める、

### みんなが楽しめる体育行事の取り組みの努力

**八木さん：**今年度より、名称が「体育委員会」と改められました。これまで、自治会会員の結束で、焼津市内自治会対抗競技大会において、各種種目に上位の成績をあげています。

こうした成果は、日頃から、各町内会の体育委員が役員としての自覚のもとに、地道に各町内の皆さんに積極的に働きかけている努力があります。日々の町内会内の「回覧板」で細かい内容を具体的に周知する工夫をした結果でもあります。こうした地道な取り組みは、これからも続けていきます。

一大行事の体育大会は、これからも、自治会をあげての行事として、今後、さらに、地区住民が楽しめる種目を組み立てた体育大会としていく努力をしていかなければなりません。

**大澤さん：**皆さんからのご意見をお聞きして、改めていろいろな自治会活動により、地域づくりにつながっていることが理解できます。丸山自治会長から最後にご意見・ご感想をお願いします。

**丸山さん：**自治会役員だけが活動することなく、地区住民一人一人がさらに自治会活動に関心をもち参画出来るように、これからも働きかけ、お互いに知恵を出し合っていきたい。

旧小川港の水門設置への実現の道程は容易ではないが努力をしていきたい。防災訓練参加状況は、3.11以降だんだん風化し減少傾向にあり、危機感を感じます。ぜひ、努力していきましょう。

**大澤さん：**皆さんから貴重なご意見をいただきました。

さらに「港第14自治会」の発展にむけて、地域住民も意識改革と問題提起をして「地域力」が発揮できるコミュニティづくりに取り組みましょう。

### 【座談会出席者】

(順不同)

丸山昭夫さん(第14自治会長・第7町内会)、嶋芳正さん(自主防災委員長・第4町内会)、山中義実さん(環自協支部長・第5町内会) 八木千春さん(体育委員会委員長・第8町内会)、伊藤敏行さん(前交通安全専門委員・第8町内会)、石間祐喜雄さん(前民生・児童委員・第1町内会)、増田ます美さん(前婦人部長・第6町内会)、曾根たえ子さん(前保健委員長・第6町内会) 広報委員6名同席

## 平成25年度の防災活動を振り返る もっと、日頃から防災・減災意識を高めていこう

東日本大震災から3年が経過した今、あらためて、私たち自治会の防災活動のあり方を振り返りますと、自主防災組織は、地域住民が協力・連携し、災害から“自分たちの地域は自分たちで守る”ために活動することを目的としています。

日頃から、災害に備えた私たちの活動は、

### 1. 地域全体の安全・漁港入口の水門推進

港の出入り口に水門を設け、安全で安心できる地域づくりは、皆様の意見を反映して自治会長が中心となり、粘り強く行政へ働きかけています。

### 2. 緊急時の避難場所・避難タワー等

緊急避難場所は避難タワー等10ヶ所の公的避難場所を確保出来ました。

避難箇所が細分化してくることで、助け合いながら避難するために隣組の協力、更には、隣の町内会等と協力しての訓練活動になります。訓練を重ねることで、緊急時に即行動出来るようになると思います。

### 3. 防災訓練・津波避難訓練、総合防災訓練

毎年、8月末・12月初めに行われている防災訓練に小中学生が参加していますが、実際の訓練は眺めているだけの傾向になっています。学校で行っている防災訓練と地域で行う防災訓練を融合するようし、若い人たちの力も発揮し、地域の防災能力を高めて行きたい。

### 4. 自助・共助・公助・防災訓練で意識付け

“自分の命は自分で守る”自助を基盤に徹底します。

災害（倒壊、火災、津波、風水害、他）にも色々あります。いかなる災害に襲われても対応が出来るように判断力を鍛え、家庭内で話し合い、そのときの状況に応じた判断・行動・連絡が取れる様にして下さい。

怖い怖いでは無く、状況を判断し行動をとるには、日頃か

らの訓練等が必要です。

自助ができて、互助・共助そして、公助へと、みんなの力を合わせた防災活動がさらに求められます。

### 避難所運営訓練からの学びでは

昨年8月に町内会長・指導委員・婦人部の皆さんが参加し、「避難所運営訓練（HUG）」を開催しました。避難所開設には、いろいろな課題がありますが、特に女性でなければ対応が出来ない内容が多く出てくるところから、女性の防災指導員の組織づくりも考えて行かなければなりません。

### 石巻市の皆さんを迎えて開催した防災講演会を今後大いに活かす

昨年11月16日に、650名が参加し、石巻市から、被災に遇われ、身内を亡くされ自治会役員、市役所職員を講師に迎え、当時の状況を熱く語られ、参加した大勢の皆さんは真剣に聴講されていました。又、一昨年被災地の研修旅行で現地を見る事が出来、現実を見、実体験者の話を聞く事が如何に大切であるかを確認しました。



### 現在の防災訓練、避難箇所と対象町内会

1. 浜の避難タワー／4・5町内会
2. 青少年の家／5・6町内会
3. 港小学校／7・8・11町内会
4. 下小田中町避難タワー／2・11町内会
5. 石津保育園／2・9町内会
6. 前の川避難タワー／2・9・10町内会
7. 会下の島避難タワー／10町内会
8. 小川小学校／10・12町内会
9. 石津防災センター／1・2・3町内会
10. 焼津市消防署4階／1町内会

### 自治会内2基目 前の川公園避難タワー 2月完成



2月23日（日）午後、焼津市危機管理課の職員から、近隣の皆さんを対象に前の川避難タワーの説明会が行われました。

この避難タワーには2・9・10町内会の皆さんが避難すると考えられ、お互いの協力が become 必要になる地域でもあります、今後の訓練を通じて協調の輪を創り、いざとなった時にこの避難タワーでより多くの皆さんが助かる様にしたいものです。

## ワンポイント豆知識 シリーズ2

### かつお節の歴史と栄養

かつおの水揚げ量が全国一を誇る焼津は、明治36年第5回内国勸業博覧会で、焼津節は全国一の名声を誇りました。そのかつお節が文献に登場したのは「古事記」のなかに「堅魚」の記述があり、古墳時代に名前が用いられているのが最古の記録で、堅い乾し固めた製品を指していました。その後、「煮堅魚」「堅魚煎汁」として文献にでてきます。「燻乾法」ができたのは室町時代の頃で、江戸時

代になって、かつお節が本格的に製造されたそうです。かつお節には、人体に必要な必須アミノ酸が含まれ、さらにビタミンB群、B1、2、6、12、パントテン酸、葉酸等多種含有しています。栄養素（100g）ではカロリー359kcal、タンパク質77.1g、脂肪2.9g、カルシウム28mg、灰分4.0gと栄養価に富んだ食品として絶賛されています。

資料参考：

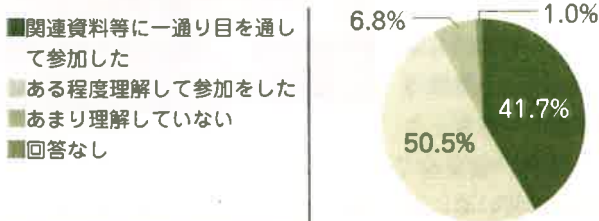
日本鰹節協会、静岡県水産試験場調べ、  
三訂補日本食品標準成分表参照



## 小川小学校を避難所とした10・12町内会103世帯(回収率89.6%)の回答 “平成25年度 地域防災訓練参加世帯の意識と実態アンケート結果”から考える

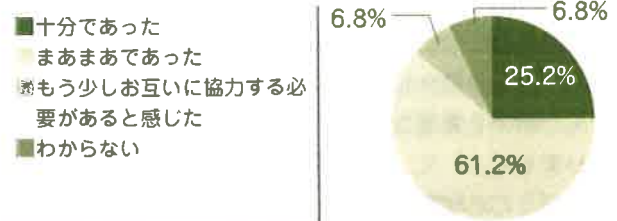
平成25年12月1日に実施した、小川小学校を避難所とした10・12町内会地域防災訓練の一環として「防災、その意識と実態アンケート」(7項目)を行いました。当日参加した115世帯のうち103世帯より回答(89.6%)をいただきました。これからの地域防災訓練の参考に、4つの項目結果を紹介します。

### 設問1 本日の防災訓練を事前にご家族で理解して参加しましたか



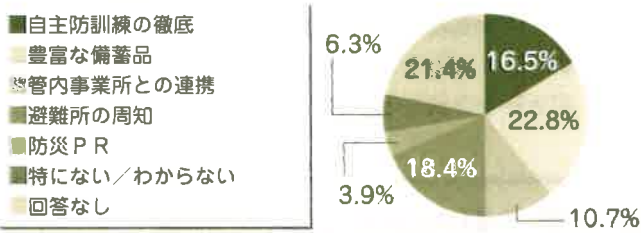
●約90%は事前に家族で理解して参加したと回答あり

### 設問2 本日の防災訓練における地域の協力体制はいかがでしたか



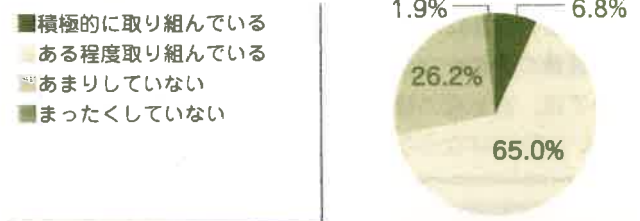
●約86%は地域の協力体制は良いと回答あり

### 設問3 防災訓練に対する期待についてお答え下さい。(複数回答)



●豊富な備蓄品、避難所の周知、自主防災訓練の徹底の回答が多い

### 設問4 災害に備えて、避難所の確認、食糧・飲料水の確保等に取り組んでいますか



●積極的に取り組んでいないが約28%回答あり

## いしづの

## 歴史



## 再発見 VOL.2

創刊号では、石津の成り立ちから現在までを紹介しました。石津には「オカ」と「ハマ」という区分があります。その「オカ」と「ハマ」について今回は紹介します。石津は大井川の扇状地にできた集落の集合体であり、個別の集落名でみると通称

で本田・下島(または下)・向・北川原・浜川原(または浜)という表記で呼ばれています。そもそも、石津のオカ地区には七軒衆と呼ばれた旧家が七軒あったと伝えられています。石津の氏神社である八幡宮を建立した時に個人の田畑や財産を出しあった家であるとされ、その七軒の内訳は伝承者によって多少のちがいはありますが、本田では「八木家」「平田家」、新田では「吉田家」「宮島家」、向では「小林家」「石崎家」、下島では「小池家」など、また北川原の「小長谷家」、下島の「丸山家」、新田の「石田家」などもあげられます。

このような旧家を中心に、石津は農業を中心に開発発展してきました。それに対して「ハマ」というのは、木屋川と駿河湾に挟まれた海浜地区で、この地区はワキ(石津以外の村)から来た人とか、オカ地区の次・三男がシンヤとして移り住んだ比較的新しい地区とされています。石津の氏神社の八幡宮が勧請されたのが永正元年(1504年)とされているのに対し、浜地区の産土神(うぶすながみ)的存在の水天宮が勧請されたのは、万延元年(1860年)と八幡宮より350年ほど新しいとされています。石津は「オカ」と「ハマ」で形成された半農半漁の村であり、「オカ」あつての「ハマ」、「ハマ」あつての「オカ」という相関性をもって今日に至ったのではないのでしょうか。

〈参考文献〉石津の民俗(静岡県史民俗調査報告書第18集)

次回は「災害の歴史と石津」



## 家庭の身近な環境問題にもっと関心をもとう

# ゴミ収集場所啓発活動の取り組みからの提言

### ゴミの処理費は、皆さんの収める貴重な税金からです

毎年ゴミの処理費には多額の費用が費やされています。  
 (焼津市の平成25年度家庭ゴミの量は約2万6千5百トン  
 総経費は約6億3千2百万円 市廃棄物対策課 資料)

ゴミの処理費については、国や県は一切補助をしてくれませんので、市が全額負担しなければなりません。 其の財源は皆さんの納める貴重な税金であることを、知っておかなければなりません。 又、市の財政にも大きな影響を与えています。 ゴミの処理費を軽減するには、ゴミの量を減らすことにほかなりません。 ゴミの中身を分析すると、資源化できる紙類及びプラスチック類が多量に混入されていることがわかっています。

これらの資源を、皆さんがしっかりと分別して頂くことが循環型社会の推進には重要であり、ゴミの量を減少させることが、経費の節約につながるようになります。 ゴミの減量については、自治会の皆さん一人一人が必要性を自覚し取り組んでいかなければならない大きな課題です。 市の環境衛生

自治推進協会(環自協)では、ゴミ減量対策の一環として、各自治会に於いて、可燃ゴミ収集場所に於ける啓発活動を実施してきました。

私達、港第14自治会では、昨年度1月7日～2月18日まで全町内会に於いて、市の職員2名、支部長、関係町内会長及び組長2名の参加で、午前7時～8時までの時間で実施しました。 当日は会員一人一人にチラシを配布しながら、ゴミ減量の必要性と、分別の方法等を説明しました。全体のチラシ配布数は420部でありましたが、まだまだ満足出来る数量ではなく、今後継続して行かなければならない活動です。

寒い中での1時間でしたが、各組長さん達の熱意に感謝します。引き続きご協力をお願いします。



### 22年間の清掃活動で第5町内会が表彰される

港第14自治会 第5町内会有志(代表者 原崎千代子さん)は、近隣の10軒の方々と、22年間にわたり、石津浜サッカー場附近の道路や駐車場の清掃活動を行い、地域の環境美化に尽力されています。多くの樹木があるにもかかわらず、落ち葉が散乱することもなく、石津浜の美観が保たれています。

長年に亘る清掃活動に対し、平成26年度5月8日(木)焼津市環自協総会において表彰されました。

ストップ

ザ・交通事故

# 飲酒運転は、ゼツタイしない

今年も「焼津市自治会別無事故・無違反コンクール」が実施されています。コンクール期間は、平成26年1月1日から12月31日までの1年間です。

港第14自治会の直近3年間の成績結果は最下位2回、昨年は、なんとか最下位を脱出しましたが、ワースト5からは抜け出せていません。

今年の**4月末時点**の中間結果では**7位**と順位は多少改善されつつありますが、既に飲酒運転が1件発生しています。

飲酒運転は、出合頭等の事故と違い一人ひとりの自覚で100%根絶できます。

「やめざーよ飲酒運転」の大看板(写真)をご存知ですか? 港第14自治会(交通安全専門委員)では、今年も継続して「春

の全国交通安全運動実施」等の交通安全運動期間中は、「辰巳自動車」前(第11町内会内)の交差点に大看板を設置します。



自治会別無事故・無違反コンクール途中結果(1月1日～4月30日)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
	件数	件数	件数	～4/30
飲酒運転(40点)	2	3	2	1
死亡事故(30点)	0	0	0	0
出合頭・追突事故(20点)	28	52	53	12
その他人身事故(10点)	12	31	28	3
順位・18自治会中…*注	18位	18位	15位	7位

\*注…人口3,000人以上の自治会(人口1000人あたり点数で順位決定)

## より親睦を深め合う体育行事で“地域力”パワーアップ

今年度から、これまでの「第14自治会体育協会」から、「港第14自治会体育委員会」に名称が変わりました。昨年度は、自治会の多くの皆さんに支えられて、立派な成績を収める事が出来ました。

### ＝平成25年度 焼津市地域対抗スポーツ大会の結果＝

1	ファミリーバドミントン大会ブロック別	3位
2	長縄大会	12位
3	玉入れ大会	22位
4	ペタンク大会 一般の部	2位
	①三世代の部	4位
	②熟年の部	2位
5	ドッチビー大会ブロック別	2位
6	メデシンボール大会	8位
7	綱引き大会	優勝

焼津市の23自治会と大井川地区3地区の中では、総合9位でした。

そして、綱引きは、念願の優勝を果たす事が出来てとても盛り上がりました。今年度は、是非とも、昨年度の総合9位から、さらに上回る成果があげられるように、皆様のご協力をお願いします。今年度は、各種大会により多くの地域の皆さんが参加できるように、工夫を取り組みます。

体育活動についての問い合わせは、お近くの体育委員までお願いします。



### 今年度の焼津市地域対抗スポーツ大会日程

- 5月18日(日) 玉入れ【12位】
- 6月29日(日) ファミリーバドミントン
- 7月27日(日) ペタンク
- 10月5日(日) ドッチビー
- 11月16日(日) メデシンボール、綱引き

### 港第14自治会町内交流スポーツ大会日程

- 6月22日(日) ドッチビー
- 10月12日(日) ペタンク
- 2月15日(日) ファミリーバドミントン

**第44回(2014)第14自治会体育大会は9月21日(日)港小学校で開催します。入場行進は8時です。(雨天9月28日)**

## 新たな港地区民生委員児童委員協議会がスタートしました

このたび、民生委員児童委員の改選が行われました。平成25年12月1日より平成28年11月30日までの3年間、厚生労働大臣から委嘱され、地域福祉の担い手(地域の相談役)として、それぞれの地域で、常に住民の皆さんの立場に立ち、相談や必要な生活支援活動等に当たります。

また、主任児童委員は、「子どもに関する相談支援」を専門に行います。これからも、自治会、町内会は、港地区民生委員児童委員協議会との連携をさらに深め、支え合う地域づくりをめざしましょう。

「港地区民生委員児童委員協議会(第14自治会関係)」の皆さんは次の方々です。

(敬称略)

担当町内会	氏名	担当町内会	氏名
1町内会(一部)	石田康之	7町内会	鈴木春子
1町内会(一部)	石田益三	8・11(一部)町内会	片山勝代
2町内会(一部)	松永裕代	9町内会	見城定功
2町内会(一部)	桑田恵吾	10(一部)12町内会	川内三郎
3・10(一部)町内会	小花弘治	11町内会(一部)	青島美佐代
4・5・6町内会	白柳 猛	主任児童委員	石田浩巳

## “ご近所福祉”をご一緒に考えてみませんか

その1

平成25年度実施した「長寿者をつなぐ、ご近所づくりその意識と実態調査」(静岡福祉文化を考える会/県民1671名からの回答)結果が公表されました。今日、高齢者を取り巻く社会問題は、「孤立・孤独死」「無縁社会」「老人漂流社会」…などいろいろな状況を私たちの周りで問題提起をしています。「高齢者とご近所福祉」をいかにして創りあげるか調査結果のまとめを本誌で2回シリーズで紹介します。支え合う地域社会づくりの参考にして下さい。

1. 男性のご近所との関わり合いの希薄化が浮き彫りになっています。  
50代以降加齢化とともにご近所との関係づくりは深まっています。
2. 日頃から、お隣同士の協力関係は、7割は前向きに感じています。  
ご近所の考え方を、約6割は「潤いのある生活を営む上で非常に重要な役割をもっている」と回答。しかしながら、若年層の3割は、「ご近所がわからない」と回答。30代・40代にも2割が「わからない」の回答です。
3. 約9割は、「近隣地域の人と親しくしたい」として前向きに回答しています。
4. ご近所で、長寿者を取り巻く話題を聴く機会がないと約7割が回答。  
身近な地域環境において「長寿者の存在や話題」をいかに拡げていくかの課題があります。

## 平成26年度 自治会活動と組織体制

焼津市港第14自治会の平成26年度定期総会が4月20日、石津コミュニティー防災センターに於いて開催され、同自治会の事業計画が総会出席者の絶対多数の賛成を得て、可決、承認されました。

表は、主な自治会活動の体制と役割を示します。また、今年度から新たに「広報誌」の継続的な発行を目的として2名の前町内会長が広報委員として留任しました。

なお、担当役員の名前をお知りになりたい方は、各組長または町内会長へその旨を申し出れば「自治会構成簿」の閲覧ができます。

方針・運営		防 災							環境・衛生	
方針・統轄	管理・運営	自 主 防 災 会							協調	
自治会会長	副会長 参与 町内会長	自主防災会会長	自主防災会 防災委員長、委員	自主防指導委員会 委員長、委員	自主防救助隊 隊長、隊員	自警団 隊長、団員	婦人部 部長、部員	保健委員 委員長、委員	消防団第十一分団 団長、団員	環自協第十四支部

福祉	更生保護	地域づくり行事			市との連携・協力			安全・安心					広報	
		体育事業等	公民館祭等		要望・協力	保健	回覧	交 通		防 犯		消防	保全	
社協第十四支部	民生児童委員 主任児童委員 保護司 更生保護 女性会の会(婦人部)	体育委員会担当 体育委員長 体育委員会委員	市スポーツ推進委員 自治会三役 町内会長 婦人部 保健委員	自治会会長	保健委員	組長	交通安全 交通安全協会分会 交通安全協会分会	交通安全 母の会(婦人部) 女性部(婦人部)	交通安全指導委員会 委員	地域安全推進委員	交番連絡協議会委員 自警団 青少年教育 センター補導員	消防団第十一分団 団長、団員	海岸巡視員	広報委員

### 平成26年度の主な行事内容

月別	主な行事内容
4月	定期総会・自治会関係団体役員懇親会・自治会別無事故無違反コンクール・春の交通安全運動・緑の羽根募金
5月	石津浜公園、各地区排水路、河川等清掃川藻切り作業・530運動・自主防定例会・社協負担金協力
6月	水防演習・各地区町内会巡視・行政要望陳情・日赤社費募金・防災機器、防犯灯点検・婦人役員懇談会・広報誌「みなといしづ」発行
7月	夏の交通安全運動・救命、救助訓練・河川海岸清掃川藻切り作業・石津浜公園清掃・各地区排水路清掃・婦人部研修・自主防定例会
8月	総合防災訓練・旧盆の精霊送り・市政懇談会
9月	体育大会・秋の交通安全運動・敬老会協力
10月	港公民館祭り・赤い羽根募金
11月	自治会交通教室・しおかぜスクール・自主防定例会
12月	地域防災訓練・歳末助け合い募金・年末の交通安全運動
1月	14自主防出初式・焼津市消防団出初式
2月	市スポーツ賞授与式・広報誌「みなといしづ」発行
3月	津波避難訓練・役員改選・防災センター運営委員会・自主防定例会

※毎月10日交通安全立哨

### ご存知ですか「さわやかクラブやいづ」

港第14自治会の皆様「さわやかクラブやいづ」と呼ぶ団体をご存知ですか？

以前は「老人クラブ」と呼んでいましたが老人という言葉のイメージが悪いと言う人もいます。でも人間必ず老いを迎える訳ですからそんなにこだわることは無いと思うのですが。さて4人に1人が高齢者という時代、「さわやかクラブ」の本部でも前途を真剣に考えて、活性化の為に事業をひろく展開しています。年5回の寿大学では各界の講師をお招きして有益なお話を耳を傾けます。と同時に楽しいプログラムもあります。3月の「趣味くらぶ」の人達の発表会も盛況です。また、「さわやかクラブ大会」では、戦後史の生き証人と呼んでもいい米寿、白寿の人達を慶祝し、永年の功績をたたえます。しかし、無謀な戦争によって尊い命を失った若き戦士に鎮魂の思いを捧げる8月15日、戦後世代によって風化させないよう、語り継いでゆきたいものですね。「さわやかクラブ」の港地区には「慶寿会」、「若松会」、「紅才会」と3つの単位クラブがあり、会長を中心にして年間計画のもと着実に活動をしています。新年度の初頭、港第14自治会が、老人クラブの現状を紹介して下さることは、時機を得て大変ありがたく、感謝申し上げます。この機会に是非入会(満65歳以上)し、皆さんと共に郷土愛を育てていきましょう。ちなみに、「さわやかクラブやいづ」は今年創立50周年をむかえ、7月19日に記念式典が行われる予定になっています。

### 編集後記

創刊号誕生から、早や7ヶ月が経過しました。

単に、発行すればいい、形にすればいいとはなかなかいきません。

昨年度2月より、今年度の広報誌発行に関する企画検討に取り組み、関係各位のご支援とご協力により、ここに、第2号が発行出来ました。自治会の基本方針の一つに「広報啓発」が掲げられました。第3号(2月発行)もさらに充実した広報誌にまいります。

広報委員 / 大澤雅晴 伊藤敏行 植村悦也 青嶋敏夫 竹本志利 平田 厚



# みらいのつなぐ

第3号

港第14自治会世帯数・事業所数

H26.12.31現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	619	35	7町内会	221	2
2町内会	458	4	8町内会	59	11
3町内会	135	16	9町内会	185	2
4町内会	66	5	10町内会	175	20
5町内会	77	1	11町内会	270	10
6町内会	77	0	12町内会	68	3

世帯数計2,410 事業所数計109

地域を守る自主防災会出初式



自助から共助へ 地域防災訓練



第1町内会地域の伝統行事秋祭り



さらに深めよう 出会い ふれあい いしづの輪



焼津漁港石津海岸公園 完成式典  
主役 焼津市 港第14自治会



交通安全教室で交通事故撲滅



伝統受け継ぎ 第44回体育大会

## 地域の絆 さらに強め 安心安全な地域づくりをめざす

長野北部地震の尊い教訓を活かしましょう

港第14自治会 会長 丸山昭夫

昨年12月7日実施いたしました「地域総合防災訓練」には、1631名がご参加いただきました。その日、挨拶の中で、訓練に参加された方々に申し上げたことを、再度この紙面を通じて、お伝えさせていただきます。というのも、この日の訓練参加者数は、港第14自治会全体からみれば、(お年寄りや子供達を対象に入れなくとも)30%程度と思われるからです。私は、この日、隣り近所の人達がどんなに大切な存在であるかを訴えさせていただきました。平成26年11月22日の夜10時過ぎ、長野県北部に震度6弱の地震が発生、白馬村等で100軒以上の家屋が倒壊しました。この時、家屋の下に残

されたお年寄りや子供達がいたのですが、近所の人達が必死になって救い出し、亡くなった人は一人も出なかったのです。奇跡的だと評されました。勿論、近所の人達は救助隊のプロではなく、救助のための専門道具があったわけではありません。自動車のジャッキ等を使い「あのおばあさんを、あの子を死なせるな!」。日頃の近所の人達の強い連帯感が、困難な救助活動に、勇気を持って立ち向かわせたのです。隣り近所の強い連帯感は、普段の生活の積み重ねの中から育まれて行くものではないでしょうか。今後の私達の生活に、是非活かしましょう。

**特集**  
紙上座談会

# この1年、防災訓練を振り返る

## — 自助から共助をいかに高めるか —

自治会では、これまで一貫して、いかに「地区住民ぐるみの防災訓練」に取り組むか定例町内会長会議（月一回）をはじめ、自主防災会（隔月第一土曜日 自治会三役、各町内会長、指導委員、自警団、救助隊、婦人部、保健委員出席）において議論を深め、年3回「総合防災訓練」（8月に実施）、「地域防災訓練」（12月実施）、「津波避難訓練」（3月実施）に取り組んでいます。平成26年12月20日に石津コミュニティ防災センターにおいて「防災訓練この一年を振り返る」をテーマに、現状と課題を自主防災会組織の代表の丸山昭夫自治会長、嶋芳正自主防災委員長、安倍孝至指導副委員長、中野憲章救助隊長、小池憲司自警団長が出席し大澤雅晴自治会参与の司会により、2時間熱く語っていただきました。

**大澤さん：**本日の「座談会」は、自治会の大きな取り組みの一つ「防災」について、地区住民の皆さんのさらなる防災・減災の意識が高まるようご意見をいただきます。大きく(1)地区住民の防災意識と実態はどうか (2)いかに「自助」から「共助」につなげるか (3)防災意識を高めていく今後の課題 の3つの柱立てて進めてまいります。



### さらなる関係機関・団体、学校、近隣地区との連携強化

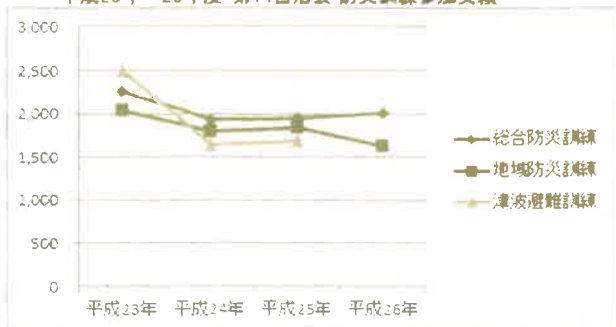
**丸山さん：**自然に恵まれている港第14自治会の会長として、平成21年度から今日まで職務にあたってきましたが、平成21年の駿河湾地震、そして、平成22年3月11日の東日本大震災では、震災後現地に3回出向き尊い学びをしました。私たちの自治会では、大震災直後に、地域住民対象のアンケート（75%回収）を実施し、市行政に要望書を提出し、管内にハード面では、避難タワー2基、石津保育園内に避難設備等が設置され、今では、避難訓練参加数は1500～2000人です。日々の自治会活動の「地域力」で、さらに防災訓練の成果を期待します。



**嶋さん：**平成23年から26年までの実績（下記実績表参照）から、より身近なところに避難タワーが設置され、訓練参加数はそれなりに増えてはいますが、全体の世帯数の70%から80%程度の参加状況であり、積極的な参加を呼びかけなければなりません。訓練を通じて、「自助」（家庭内の取り組み）の大切さや、各領域における工夫が求められます。



平成23年～26年度・第14自治会 防災訓練参加実績



**安倍さん：**子どもさんは、全体的に参加が増えています。今後も、各学校との連携協力を呼び掛けていきたいですね。



**小池さん：**とかく、これまで、事前に回覧板や広報で防災訓練の参加の周知をしても、当日対外試合で訓練に参加しない状況もありました。地域をあげた防災訓練には、全地区住民は、優先して参加してほしいですね。

**中野さん：**最近の訓練では、非常用持ち出し品等を持って参加する人が多くなってきたように見えます。



**嶋さん：**大勢参加した避難訓練会場内では、「訓練の変わりばえがない」という意見が出ないように、「訓練内容の細分化」とともに、「基礎訓練の繰り返し」は必要です。

**丸山さん：**いかにして、「体験型」「参加型」訓練を展開できるか工夫が求められますね。

### 日頃から、家族ぐるみで防災・減災を語れる環境を創る

**大澤さん：**それでは、「自助」から「共助」にいかにつなげるかで意見をいただきます。



**安倍さん：**家庭内の取り組みでは、まず「家具転倒防止」を徹底したい。

**小池さん：**とにかく、自分の命は自分で守ることを徹底した訓練に参加、その後、お互いに支え合う行動がとれる訓練に徹したい。



**嶋さん：**日頃、防災・減災について、積極的に家庭内での話し合いや、自己トレーニングを心がけてほしいですね。

**丸山さん：**東日本大震災の教訓では、大津波が来れば、人を助けることは難しいと実感しました。少し時間が経ってから、ご近所で支え合うことが大切と感じます。

**中野さん：**常に、避難用具等は身近なところに置く習慣をつけたいですね。

**小池さん：**「消防団」と防災訓練との関係はいかがでしょうか。

**丸山さん**：今後、「消防団」の皆さんと、自主防災会との連携の在り方を充分検討したい。

**地区住民のニーズを明らかにし“いしづの地域力”発揮**

**大澤さん**：それでは、さらに防災意識を高めていくためには、どうしたらよいかご意見をいただきます。

**安倍さん**：地区住民に、自治会、町内会の防災組織体制、役割分担等を明確にしておきたい。

**小池さん**：なかなか自主防災会担当者の任務がわからない。

地区住民が、それぞれ主体的に訓練に関わる中で、これまでの歴代自治会・町内会役員の皆さん（OB・OG）が、こうした組織に何らかの関わりを持っていただけれることを提案をしたい。

**中野さん**：災害時に活かせる“合言葉”があるとわかりやすいですね。今の同報無線では、聞き取りにくい。そういえば、昔は、「半鐘」がありましたね。

**丸山さん**：訓練の意識を高めるためには、より具体的な申し合わせや取り組みが必要ですね。

これまでの災害から、尊い教訓を風化させないためにも、あらためて、地区住民対象のアンケートを実施し、問題提起をしていくことも大切ですね。

**嶋さん**：自治会役員の皆さんの任期との関係がありますが、今後さらに自治会組織と自主防災組織が一体となって訓練に取り組むことが必要です。

**中野さん**：自主防災会各担当者は、知識や技術の研鑽を積み上げて、地区住民を引っ張っていけるようにしたい。

**丸山さん**：長い間、役割を担っていただいている方々にはご苦労と敬意を表します。それぞれの役割は、長い歳月の中で、その必要性から設置されています。

地区内の皆さんが結束をして、その役割を引き継ぎ、近隣地区相互の連携を図っていかねばなりません。

**大澤さん**：超長寿社会を迎えた今日、高齢者をはじめ要援護者等を中心とした訓練の取り組み、福祉避難所のあり方や、民生委員児童委員の皆さんの日頃の活動との関連性も検討していきたいもの



ですね。最後に、丸山会長から、地区住民へのさらなる呼び掛けをお願いします。

**丸山さん**：大変大事な、そして頭を抱えてしまう難しいテーマにしないためにも、住民一人ひとりが防災・減災に取り組んでいくことです。安心・安全な地域をめざした、地区ぐるみの取り組みにより“いしづの地域力”が生まれてきます。それには、日頃のご近所同士のつきあい、近隣地区との連携が大切です。また、自治会・各町内会の諸行事や活動にも積極的に参加し、「地域の絆」を深めましょう。

港第14自治会では3月15日に「石津海岸公園春の集い」を開催します。自治会をあげてさらに絆を深めましょう。



いしづの

歴史

再発見

VOL.3

石津と災害

今回、石津と災害について色々な伝承などから紹介します。駿河湾に接している石津地区は古くから数々の災害に見舞われてきた。この為、周辺の地区を含めて災害にまつわる伝承が数多く残っている。よく知られている伝承は林叟院に関するもので、小川の法永長者長谷川正宣が賢仲禅師に帰依し、小川の東浜に寺を建立して林双院と名付けた。ところが明応六年（1497年）に異相の老人が来て、賢仲禅師に寺を移すように言う。二人で高草山の山中に入って行き、老人がここに寺を移すように言うと、老人の姿は消えてしまう。間もなく寺をそこに移して林双院を林叟院と名前を変えた。すると、翌年の秋、大地震と津波が起きて、林双院の跡も海になってしまった。もちろんこの話は伝説だが、明応七年（1498年）八月二十五日に大地震と津波があつてこの地区が大きな被害を受けたことは歴史的な事実である。また、元禄十二年（1699年）の八月十五日大きな津波が襲い、石津村の人たちは西の方へ逃げた。もう少しで与惣次とい

う所に大きな松が生えていたので、人々は争ってその松にのぼった。その様子が鳴子の様であったので、以来その松を鳴子の松と呼ぶようになった。現代の松は三代目だという。また、浜地区の「中の道」にそびえている明神の松に登って助かったという伝承もある。この他石津、田尻北および田尻には四体の波除地蔵が祀られている。石津の波除地蔵は集落内を南北に貫くナカミチ沿いに八兵衛さんといっしょに祀られ、1861年（文久元年）の銘がある。田尻北では間隔をおいて南北二カ所に波除地蔵がある。田尻北西部の波除地蔵は高波が来ることを大声で村人に伝えたと伝承されている。田尻の波除地蔵は浜川原地区に一体存在している。いずれの波除地蔵も、その背後で集落を守るかのように海に向かって顔を向けている。このように波除地蔵の多さは高潮等の被害がこの地区に頻りにあったからではないだろうか。



現在の鳴子の松



石津の波除地蔵

## いしづの教育 — 小川学区と港学区からなる港第14自治会の発展 —

伝統文化と歴史、自然環境に包まれた港第14自治会。

よく、人々の集う場で「昔は、よく小川小・中学校まで通ったな…」と懐かしむ会話を耳にします。

今では、「港地区」にまとめられたこの地域。今回は、小川学区と港学区の二つにまたがる港第14自治会の「いしづの教育」を学校、社会教育関係者から寄せられたメッセージとともに、「地域ぐるみの教育」を紹介します。

### 学校教育と港第14自治会

現在の港第14自治会内の学校教育を、少しさかのぼって見ると、「小川小学校」は、明治6年に創立し、かれこれ142年の歴史が流れています。小川中学校の創立は昭和22年。その後、港小学校が昭和45年、港中学校が昭和48年に開校し、ここに二つの学区が誕生して現在に至っています。教育委員会の資料では、港第14自治会内の児童生徒は、港学区内には450名、小川学区に91名、合わせて541名が学んでいます。学校、家庭と地域連携が強調されている今日、年間を通じて、各学区では、関係者による「学区を語る会」「学校評議員会」や「地域防災連絡協議会」「明るい街づくり地区大会」等が開催され、意見を交わし合う中で、子どもたちを取り巻く環境改善に努めています。また、登下校時の見守り活動にも多数の地区住民が参加をしています。「木屋川ボート事業」「しおかぜスクール(通学合宿)」「ミニディサービス(高齢者等とのふれあい交流学習)」等、多くの地域の行事参加を通じて、より一層の連携を深めています。学校教育では、「あいさつ運動の展開」「防災教育の強化」「ピア・サポートプログラム(異年齢・縦割り集団諸活動)」「キャリア教育(進路・職場体験学習)」「特別支援学級の取り組み」「ホタル研究会活動」など、各学区の各学校教育の取り組みは、定期的に各戸回覧さ

れる「学校だより」の紙面で、目に見えるわかりやすい各学校教育の内容が紹介され、地



域住民が理解する機会をいただいています。さらに、二つの学区の各学校との連携を深めて、「地域の子どもたちを地域で育む」地域ぐるみの教育に向けて、子どもたちを健やかに育む地域環境づくりに努めていきましょう。

学校名	全校児童・生徒数	第14自治会児童・生徒数	男子	女子	区域外	私学等
小川小学校	715人	63人 (8.8%)	37人	27人	1人	
小川中学校	374人	28人 (7.5%)	17人	15人	4人	
港小学校	731人	284人 (38.9%)	153人	133人	1人	1人
港中学校	391人	166人 (42.5%)	88人	84人		6人

※教育委員会資料(平成26年4月現在)

### 社会教育と港第14自治会

私たちは「社会教育」というとすぐに「公民館だね。」と即答します。少し堅い話になりますが、社会教育法というものがあり、第五章の公民館の目的には、「市町村その他一定区域の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉

の増進に寄与すること」とこのように述べています。人口減少・少子高齢化、家庭機能・地域力の低下が叫ばれ、大きく社会が変化する時代を迎えている今日あって、公民館を取り巻く地域の複雑多様なニーズに対応するための役割を、公民館は、日々担っています。いつでも、だれでも利用でき、地域の皆さんが出合い、そしてふれあい、語り合いな

がら、地域の課題を解決するために、地域住民主体でつながる「地域の拠点」としての機能を持っているようにも感じます。港第14自治会には、中学校校区単位として「小川公民館」と「港公民館」の2つの公民館があります。生涯学習・仲間づくりの場とした「自主講座」をはじめ、地域課題解決に向けた「短期講座」「防災教育」「地域学習」等幅広い領域に取り組んでいます。また、自治会等の役員の会合、PTA、子ども会の集まりにも多く利用され、その役割を果たしています。また、広く情報を収集し、地域の皆さんに役立つ情報の発信にも努めています。公民館で、地域の皆さんとの出会いを……出かけてみませんか公民館へ。

**きっと、見つかります あなたのライフステージ**

公民館名	設置年度	対象世帯・人口
小川公民館	昭和30年 ※平成26年5月改築	5086世帯・13344人
港公民館	昭和56年	5341世帯・14062人

※「平成26年度焼津の教育」より



平成26年度港公民館まつり・焼津高校生のパフォーマンス

## 県立焼津青少年の家の前身は「海洋道場」

「いしづの教育」には、「社会教育」の領域で大きな役割を果たしている「県立焼津青少年の家」があります。この青少年の家の歩みをたどって見ると、懐かしいあの時代の「海洋道場」を思い出します。

昭和17年末期、東京都と海軍省が主催し、海洋道場建設委員会が全国に設置されました。静岡県庁内にも県支部が設置され、県下有数の企業等の寄付金のもとで、「海洋道場」が建設されました。

当時、県下の各中等学校の生徒に海洋思想の普及や海洋訓練の場としての役割を果たしましたが、戦後は「海洋館・シーハウス」として、県内各学校、青年団などの社会教育と体育向上を目的に利用されたと「小川町誌」に綴られています。その後、昭和37年に、現在地の北西側に県立焼津青少年の家が設置され、さらに昭和61年に現在地に至っています。これまで、県内外から多くの青少年が利用し、カヌー等海洋活動、オリエンテーリング、サイクリングなどに、我が石津の恵まれた自然とふれあう地

域環境のもとで、貴重な宿泊体験学習が行われています。さらに安心・安全な体験学習ができるように地域ぐるみで応援し、成果を期待したいものです。

また、青少年の家は、地震津波災害時の緊急避難地としての役割を担っています。地域との協力体制を強めるとともに、毎年3月には「地域防災研修」の機会を提供していただいています。



当時海洋道場から乙女ヶ丘海水浴場へ向かう生徒たち

## ワンポイント豆知識 シリーズ3

### 鯖は栄養の宝庫

近海魚の代表の一つともいえる鯖は、夏が旬のごま鯖（丸鯖）、秋になると脂がのって美味しい本鯖（平鯖）の2種類があり、脂ののった時期にはEPA（エイコサペンタエン酸）／DHA（ドコサヘキサエン酸）が多く含まれて、とくにEPAの含有量はほかの青魚の3～4倍！また脂質は不飽和脂肪酸が多く成人病の予防に一役買っています。血合い肉には鉄分も豊富。また鯖には、タウリン、カリウムなどもふくまれており、特に

ビタミンB2は青魚の中では一番。このように栄養価の高い鯖の料理方法は多種あり、また様々な加工食品としても数多く店頭にならんでいます。小川漁業協同組合と小川港さば祭り実行委員会は小川港で水揚げ量の多い鯖の魅力を多くの人に知ってもらうために「小川港さば祭り」を毎年開催（昨年は11月1日・写真）し、魚食普及と消費拡大に努めています。（取材協力：小川漁業協同組合）



## 長年の念願がなった「石津海岸公園」完成、春の集い、でさらなる地域の絆深め合おう

20年来にわたる建設工事の残土置き場となっていた石津地区防波堤沿いを県が整備し、「焼津漁港石津海岸公園」として完成、昨年9月15日に、川勝県知事、中野市長をはじめ国会議員、県議会議員、市議会議員等多くの来賓の皆様方が列席されて盛大に完成式典が行われました。その後、私たち自治会、水天宮パノラマゴルフクラブは、県、市とこの公園の環境美化活動に参画する「ポートサポーター制度」にも調印し、地域の新たな憩いの広場として、環境美化に努める決意をしました。この石津海岸公園の完成を、港第14自治会の全地区民で祝おうと、このたび実行委員会を立ち上げ、「春の集い」を、3月15日（日）に開催することになりました。昨年11月29日に石津コミュニティ防災センターで関係者80名が出席し、第1回実行委員会を開催しました。開催趣旨説明、と協力団体の確認、組織体制と当面の運営等を協議をしました。今年に入り、第2回実行委員会（1/10）、第3回実行委員会（3/7）を開催し、当日につなげます。より多くの地域の皆さんの参加で「地域の絆」を深めましょう。



世代を超えたふれあいの輪で楽しく  
石津海岸公園完成、春の集い、

**日時** 平成27年3月15日（日）  
11時～14時30分（雨天3月22日）

**会場** 石津海岸公園芝生広場

**第一部**

**式典**

- 宝さがし（11:00～）
- 石津ウルトラクイズ（14:00～）
- 踊り（七福神・フラダンス）
- ガマの油売りショー
- 合唱
- 児童・生徒による吹奏楽等
- 焼津水産高校応援パフォーマンス

さあ  
“近行き”気分で  
参加しよう



## だれでも参加する体育行事で、地域のふれあい交流をめざす

44年もの伝統を引継いできました「第44回体育大会」は晴天に恵まれた9月21日（日）に「笑顔と絆と感動!!」をスローガンに開催されました。地域ぐるみの参加を目指して、体育委員会では「参加しやすい競技種目」「初めて参加される方にも理解できる運営」「ゆとりある進行方法」等課題解決に努めてきました。毎年会場が一体となって盛り上がる綱引きでは、なんと第2町内会の結束力衰えず十連覇の成績でした。また、年代別リレーも見もので、今回は第11町内会が優勝しました。



綱引優勝 第2町内会



年代別リレー優勝 第11町内会

港第14自治会の各町内会ふれあい交流大会は、「ドッチビー大会」を6月に開催されました。

スポンジのフリスビーを投げ合うスピード感が出て盛り上がる種目です。今年度の優勝は第12町内会でした。体育大会直後の10月には、小さなボールを転がして競い合う「ペタンク大会」が開催され、男子の部は第7町内会、女子の部は第3町内会がそれぞれ優勝しました。年間の体育行事は、「ファミリーバトミントン大会」（2/15）、「港第14自治会主催グランドゴルフ大会」（2/21）も開催（詳細次号）。

### 交通安全教室

平成26年11月9日、港公民館にて港第14自治会主催の交通安全教室が開催されました。

開催当日は、あいにくの天候にもかかわらず114名の皆様に参加を頂き、充実した交通安全教室ができました。

今年度は、「自転車の交通ルール」について講習を受講しました。（実技は、雨天のため中止）



自転車の点検指導



安全宣言の風景

**小川交番  
防犯情報**

**注意しよう “我が家の防犯”**

○自転車、オートバイの盗難に注意

自転車はツーロック、オートバイはハンドルロックを確実にしよう

○車上狙いに注意

自動車の駐車時には、ドアロックを忘れないようにしよう  
※自宅駐車場でもご注意ください

○下着泥棒に注意

女性用の下着の洗濯物の干し方は“自立たないよう”十分注意しよう

## 新しい古紙回収場所で、自治会活動の活性化

地域の皆様のご要望により、新しく古紙回収場所を、昨年12月10日（水）より石津コミュニティー防災センターと、石津八幡宮の間に設置しました。前年度に比べると、古紙の回収量が激減しております。古紙の回収費は、自治会の貴重な財源となり、年1回各町内会に分配されますので、不燃物収集日以外にも是非、自治会の古紙回収場所を利用していただきますようお願い致します。又、ゴミの中に混入されている古紙については、分別をして頂き自治会の古紙回収場所に搬入して頂く事で、古紙の回収費も増加し、ゴミの減量にもつながります。



## ビーチクリーン大作戦で、石津浜海岸がピカピカに

市内一斉のビーチクリーン大作戦が、昨年11月30日（日）に実施されました。石津浜海岸には、他地区の皆さんにも参加して頂き、総勢543名で作業にあたりました。丸山自治会長、副市長、県議の挨拶の後、市の職員からの作業説明を受け、約1時間の作業後には見違える程の海岸になりました。毎年元旦には、初日の出を拝む大勢の人々で賑わう海岸でもあり、海岸を訪れた皆さんは、快く新年を迎える事が出来ました。又、石津浜海岸が綺麗になった事で、石津海岸公園から望む真っ白な富士山は、一段と美しく輝いて見えます。ビーチクリーン大作戦参加者の皆さん、ご協力有り難うございました。



## ▶▶▶ 長年のラジオ体操普及活動で栄えある表彰 ◀◀◀

山口ひで子さん（第7町内会） 中野行男さん（第8町内会）おめでとうございます

長年、健康増進のため、ラジオ体操の普及活動に努めている山口ひで子さん（第7町内会）中野行男さん（第8町内会）が、（株）かんぽ生命保険、日本放送協会、NPO法人全国ラジオ体操連盟から、その功績が認められて、平成26年7月焼津中学校の会場で、表彰状がおくられました。平成9年からはじめたラジオ体操も、現在は会員が80名余となりましたが、お二人は「もっと多くの方が健康増進のためラジオ体操に参加してほしい」と語っていました。



## 地域の輪 広げて25年 新田サマーフェスティバル

30数年前から、第1町内会には、ソフトボールクラブ“新田スターズ”があり、ほとんど日曜日は試合で、家族サービスが出来ませんでした。それを反省し、年一度の家族連れバス旅行を行ってききましたが、費用がかさむためお金をかけずに家族サービスしようと、25年程前から行ったバーベキュー大会が“新田サマーフェスティバル”の原点です。

当初は、おにぎり・焼肉・焼きそば、子供たちには、手作りの射的・くじ引きを行い、景品も手作りでしたことを覚えています。会場は、空き地や区画整理中の道路を利用していました。



そんな小さな取組みが評判となり、徐々に増え、運営を当時の中老会（現在の新和会）にお願いし、チケット販売を行うようになりました。現在は「石津新和会」が中心に、夏の一大イベント“新田サマーフェスティバル”として、子供から長寿者の方々まで500名あまりが参加、楽しい地域の大事なコミュニケーションの場となっています。いつまでも、続けていきたい新和会（第1町内会）の大きなイベントです。

地元の新田バンドによる演奏・カラオケ大会・金魚すくい・ヨーヨー釣り、地元ダンス教室の子供達がダンスの披露等コーナー企画も増えています。過去には、地元の女性の皆さんによる銭太鼓の出演もありました。（新和会OB）

## 昭和から平成に受け継がれて30余年 今年も第8町内会初日を拜む会開催

新春を日の出の感動で迎える、私達第8町内会の事始めは「初日を拜む会」から始まります。

昭和から平成へと三十有余年、継続は力なりと、途切れる事なく有志の発案で始まったこの行事は、脈々と受継がれています。今では、町内会行事として橋渡しされ、恒例の行事となりました。大晦日、当日未明の支度から、浜に積上げられた薪で暖を取り、名物は火釜で作る豚汁です。これが旨い!! 子供菓子、つまみ、飲物が振舞われ、日の出を待ちます。この皆さんの談笑の中に町内の和が生れて行きます。元気で居る事への感謝、人との繋り、ぬくもり、新年の抱負、すべてが集約され、日の出と共に万歳へと移って行きます。町内の元気の源でもあります。最近是不慮の災害が多く発生する昨今、向う三軒両隣り仲良くして、何かあったら助け合うことが必要な時代が、また来た様な気がします。



## 輝く数々の受賞 港混声合唱団

焼津市立港中学校合唱部OB中心に、現在では、焼津市内の中学生、高校生、大学生等40名ほどで編成された「港混声合唱団」(指導者 増田和美先生 現大富中学校勤務)。

平成24年7月に創設以来県内外で輝かしい活動実績を持っています。これまでに、第53回静岡県芸術祭賞(平成25年度)をはじめ、平成26年度県合唱コンクール金賞・特別賞(準グランプリ・朝日新聞社賞)、関東ブロック合唱コンクール大学ユースの部、金賞等に輝いています。さらなる、ご活躍を地域をあげて応援しましょう。3月15日の石津海岸公園 春の集いにも出演されます。



## 生活習慣病の重症化を防ぐための 特定健診 を受けましょう

過剰なストレス、過度な飲酒、喫煙、運動不足、睡眠不足、不適切な食生活等が原因で高血圧症、2型糖尿病、脂質異常症、腎臓機能低下を引き起こし重症化になる方が増えています。生活習慣病の悪化により、若くして要介護者になったり死亡にいたることを予防するために、40歳以上の国保加入者は、焼津市が推進する特定健診を受け、生活習慣を改善したり糖尿病や心

筋梗塞などを防ぎ、病気を軽いうちに治療をすることで普段の生活を維持することが可能となります。この特定健診の受診率が、焼津市は32.3%、藤枝市47.2%です。受診率が高まり予防ができれば医療費の軽減にも繋がります。

また、心身共に健康で暮らすことができますので是非受診しましょう。



## “ご近所福祉”をご一緒に考えてみませんか その2

「平成25年度・長寿者(高齢者)をつなぐ、ご近所づくりその意識と実態調査」結果から「その2」を紹介します。(実施主体:静岡福祉文化を考える会・県内1671名回答)

支え合うこれからの地域づくりの参考にして下さい。

- ◇長寿者(高齢者)が、住み慣れた地域で安心して暮らすには「安心安全な交通・建物の整備」21%、「わかりやすい情報提供」20%、「保健医療の充実」18%、「長寿者の理解を深める積極的な広報啓発・教育の充実」17%
- ◇「一人でも安心して暮らせる地域づくり」への努力について「努力している」40%(40代から加齢化と共に多い)、「あまり努力していない」38%、「わからない」22%(10代~30代層)
- ◇日頃、地域の一員として、何か地域のために役立ちたいと思っ  
ていますか  
「思っている」54%(主な活動は、「地域福祉活動」21%「地域防災活動」14%「コミュニティ活動」12%「スポーツ・

- 体育・レクリエーション」11%)
- ◇長寿者(高齢者)の孤立・孤独防止のための「居場所づくり」への参加呼び掛け  
「呼び掛けがあれば参加をする」70%

## 編集後記

地域の絆をさらに深め、親しまれる広報誌づくりをめざして、皆さんから寄せられた数々の意見をもとに、7ヶ月間広報委員会で協議を重ねて、ここに第3号を発行することが出来ました。特に、本号では、各町内会をはじめ、管内の各学校、公民館、交番等の多大なご支援ご協力をいただきました。今後も、自治会の更なる活性化に向けて、その役割が果せるよう努力してまいります。皆様から、「懐かしいあの時代のいしづ」「身近な、ホットな地域の話」等をぜひ、各町内会長様までお寄せください。

広報委員/大澤雅晴 伊藤敏行 植村悦也 青嶋敏夫  
竹本忠利 平田 厚



# みなと いづみ

第4号

港第14自治会世帯数・事業所数

H27.4.1現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	623	35	7町内会	217	2
2町内会	448	2	8町内会	59	11
3町内会	133	17	9町内会	180	2
4町内会	62	1	10町内会	179	18
5町内会	78	1	11町内会	264	9
6町内会	76	0	12町内会	70	4

世帯数計2,389 事業所数計102

第8回グランドゴルフ大会



2月

平成26年度 町内交流ファミリーバトミントン大会



明るく安心して住みよい地域づくりをめざそう



石津海岸公園完成記念春の集い

3月



水天宮大祭 屋台引き回し



4月

港第14自治会

平成27年度 港第14自治会定期総会

## ふるさと石津が甦った“石津海岸公園完成記念春の集い”

港第14自治会 会長 丸山昭夫

今日は5月8日。緑が目立ってきた石津海岸公園の芝生の中を10周、その後外周を1周走った。ゆっくりしか走れないので、72分かかった。初夏の駿河湾は今朝も静か。高草方面から流れてくる風が、汗で熱くなった身体に心地よい。

3月15日の石津海岸公園の完成を祝う春の集いを振り返るたびに、嬉しさがこみあげてきます。よくあれだけの事業が、1つの自治会でやれたものだ実感します。私達の自治会には、それだけの地域力があつたことへの充たされた気持ちになります。成功の要因は、何といても、各団体等から選出された50名を越す実行委員のがんばり。

とりわけ、幹部役員の不眠・不休の奮闘、そして、出演いただいた12の団体、個人の方々のご支援ご協力があったからこそです。私は、その日の挨拶で、今、社会を揺り動かしている大きな問題に関連して「今日は、ふるさと石津の有り難さを改めて思い、これからも、もっと皆さんで良いふるさと石津を創っていきましょう。」と訴えました。

この日集まった地域住民1500人は、心から“春の集い”を喜んでいただけたと思います。そして“わがふるさと石津”を、人情豊かな、安心して暮らしていける、もっと良いふるさとにしていこうと思ってくれたに違いありません。

# 爽やかな潮の香り漂う中で、地域の連帯と絆さらに深まる 石津海岸公園完成『春の集い』に1,500人が集う

## 浜行き気分を再現

3月15日(日)に石津海岸公園の完成をオール石津地区でお祝いする「春の集い」に1,500人が参加し、盛大に開催されました。「春の集い」は、自治会が行う初めての大きな行事。関係者が実行委員会を立ち上げ、地域をあげた取組みとなりました。昨年11月29日に関係団体、関係者約80名が参集し、第1回実行委員会を開催し「春の集い」の開催趣旨等の説明、協力団体の確認、組織体制等を協議し了承を取り付け、その後も精力的に協議を重ね、あの時代懐かしい“浜行き気分”を再現しようと、数々の趣向を凝らし、当日を迎えました。

## 石津の地域力を結集した企画の裏表

プログラムは、第一部 お祝いの式典、第二部 余興等のお楽しみの会として企画し、出演を賛助団体に要請し、快諾を得ました。一方模擬店は、特に衛生・安全面を徹底して、中部保健所、消防署の指導を受け会場レイアウトや提供品の点検を綿密に行い準備を進めました。

開催当日は、天候(天気、気温、風等)を心配して早朝から実施の可否を協議し、何とか開催できる旨を確認し実施に踏み切りました。実行委員の皆さんで会場設営に入り、定刻には、準備万端整い大勢の参加者を受け入れることができ、関係者一同ほっとしました。

なんとといっても、集いを成功に導いたのは、各戸配布の「チラシ」にガラポン抽選券を掲載、模擬店(焼きそば、カレーライス、フランクフルト、おでん、ドリンク)を切り盛りした青年会(第1町内会親和会、第2町内会青連会、第4・第5・第6町内会の親愛会、第7町内会親盛会、第8町内会中老会)、甘酒提供の石津八幡宮・水天宮の宮総代の皆さん、お絵かきせんべいの港小育成会、会場を心地良い演奏で盛り上げた新田バンドの皆さん、食券・弁当販売等の民生委員・児童委員、会場設営警備の石津共栄会・パノラマグラウンドゴルフクラブ・さわやかクラブ、駐車場・交通案内の消防団、レクリエーション(宝探し、ウルトラクイズ)担当の体育委員会、受付・救護を担当した保健委員、女性部、余興出演者担当の自主防災会の皆さん、イベント運営全般にかかわった町内会長の皆さん、そして当日司会進行の平田高弘さん、小池康夫さん、松永光弘さんには余興プログラムの企画から運営進行までを担当していただき、円滑にプログラムが進みました。



## 甲賀さんと原崎さんの元気、会場いっぱい

ご長老（原崎徳蔵（97歳）さん・甲賀二録（92歳））さんが登場した「ご長老インタビュー」は大いに、会場いっぱい盛り上がりました。お二人から、かつての石津地域の戦前・戦後の様子などのお話を世代を超えて聴きあう中で、いまもしっかりと続いている“石津の地域力”を参加者は再確認しました。



原崎さん



甲賀さん



港混成合唱団、焼津消防団ラッパ隊、港中吹奏楽部、港小4年生、カニケイカペラフラグループ、七福神会、がまの油売り有田義雄さん、小さな歌の会、ほにいと港ハイキングコーラスクラブ、港わらべ歌の会、ドリームズ・Tダンスクラブ、焼津水産高校応援団、バルーンアート竹田金一さんによる数々の演奏・ダンス・合唱や余興などがあり、会場は盛り上り、楽しい雰囲気になりました。



## フィナーレはウルトラクイズ

“春の集い”の最後のプログラムはウルトラクイズ。これまで広報いしづに掲載した数々の石津の歴史が中心の問題でした。豪華景品を当てようと大いにみんなで楽しみました。参加者からは「子供からお年寄りの方まで楽しめた」（小学校4年生・女子）「ゲームや歌、インタビュー、クイズ、ガラポンどれも楽しかった」などの意見を多くいただきました。



## 公園はみんなで環境美化に取り組みましょう

広大な広場公園を最良の状況で利用するには、それなりの維持管理が不可欠であり、管理者である静岡県焼津漁港管理事務所と連携・協力する静岡県の「ポートサポーター制度」に則り、県、市、自治会、水天宮パノラマグランドゴルフクラブ等地域の三者が調印し、環境美化活動に参加することになりました。

公園の概要は、芝生広場 9,600㎡、多目的広場(3面)18,200㎡、周回園路1,240m、トイレ1か所、水飲場1か所、休憩所3か所、手洗い場2か所が整備済です。駐車場については、水天宮から海岸公園に向かったサッカー場横に縦列駐車及び防潮堤沿いの二か所に駐車できます。

石津海岸公園 平面図



特集

いしづの居場所

“私の居場所” から “地域ぐるみの居場所” づくりへの期待

本来、私たちの真の居場所は「家庭」ではないと言われてきましたが、今後、せめてお互いに顔の見える地域をいかに「家庭化」していくか、社会全体に「地域の居場所論議」が集中しています。先般開催された、「焼津市公開型社会教育カフェ 一緒に語ろう これからのコミュニティ あなたに“居場所”ありますか？」（焼津市社会教育委員会主催67名参加）では、現在の居場所は、「仲間 24%」「趣味 24%」「家庭 16%」「地域 16%」「所属 11%」と分散している。そして理想の居場所は「地域 64%」「趣味 17%」「所属 8%」「仲間 5%」そして「家庭 2%」と回答。高齢者問題が浮上した時代に、みんなが寄り合える場所、そこが「ふれあいサロン」、「ミニディ」、「S型デイサービス」、「寄り合い処」と地域によって名称こそ違いますが、各地域の特色を活かし、工夫を凝らした取り組みが展開されて、今日に至っています。孤立・孤独が報じられている、これまでの尊い災害の教訓からも、日頃から、お互いに顔の見える関係を地域で創ることが課題になっています。このたびの「介護保険法」の改正では、「地域支援」が取り上げられ、あらためて「地域の居場所」「地域の担い手の養成」が急務であるとも言われています。最近では、子どもから大人まで、誰もが住み慣れた生活圏域で、“ホッとする居場所づくり”に向けた取り組みの話題が聞かれます。今回は、日頃、港14自治会の地区住民が集まる場所は、どのような領域にあるかを、広報委員が各地区を回り取りまとめました。

高齢者の皆さんとふれあい交流

★石津ミニディサービス

- ・平成9年開設
- ・石津コミュニティ防災センター
- ・原則毎月第3水曜日 9:30~11:30
- ・利用者（80歳以上の方どなたでも利用可）…18名
- ・地域ボランティア…12名

★祐心館ミニディサービス

- ・平成10年開設
- ・石津浜祐心館
- ・原則毎月第4水曜日 9:30~11:30
- ・利用者（80歳以上の方どなたでも利用可）…22名
- ・地域ボランティア…13名

★会食サービスあじさいの会港地区（14・23自治会）

- ・昭和57年開設 ・港公民館
- ・原則毎月第2水曜日 12:00~
- ・利用者（70歳以上で一人暮らしの方）…31名
- ・地域ボランティア…12名



石津ミニディサービス



祐心館ミニディサービス



あじさいの会港地区



石津フレンド



新田親和会



石津中央港会

第45回 港第14自治会体育大会

9月20日(日)港小学校で開催します。  
(雨天の場合 9月27日)

みんなで参加しましょう!



水天宮パノラマクラブ



祐心館グランドクラブ

## 健康スポーツ交流

### ★グランドゴルフ

#### 【新田親和会】

- 平成17年結成 • 石津西公園
- 日・祝なし9:00~11:00
- 会員20名

#### 【石津中央港会】

- 平成10年結成 • 石津中央公園
- 月~金 ラジオ体操・公園清掃後  
開始 8:10~10:00
- 会員38名

#### 【石津フレンド】

- 平成13年結成 • 石津岡公園
- 月・火・木・金 9:30~11:30
- 会員女性のみ16名

#### 【水天宮パノラマクラブ】

- 平成17年結成 • 石津海岸公園
- 会員40名

#### 【祐心館グランドクラブ】

- 平成12年結成 • 祐心館広場
- 月~金 8:30~11:00
- 会員15名

### ★ラジオ体操

#### 【石津港公園ラジオ体操会】

- 平成19年結成 • 石津港公園
- 毎朝6:20~6:40 • 会員50名

#### 【石津浜ラジオ体操会】

- 平成3年結成
- 石津浜ゲートボール場
- 毎朝6:20~6:40 • 会員35名

#### 【石津中央公園ラジオ体操会】

- 平成9年結成 • 石津中央公園
- 月~金6:10~6:40 • 会員36名

### ★ゲートボール

#### 【焼津市ゲートボール協会(長寿福祉課所属)】

- 昭和52年5月結成
- 石津浜ゲートボール場
- 毎日13:00~16:00 • 会員35名

※それぞれ、各クラブとも  
「年齢制限なし」「随時募集」



石津港公園ラジオ体操会



石津浜ラジオ体操会



焼津市ゲートボール協会



石津中央公園ラジオ体操会

## 港公民館に「みんなの居場所」が6月2日より始まりました。

お茶やお菓子を食べながら、おしゃべりしたり遊んだり、お仲間とゲームをしたり…と、地域の皆さんがともに公民館でひと時を過ごせる「みんなの居場所」です。ぜひご利用下さい。

- 主 催/港地域づくり推進会 (14・23自治会) ●会 場/港公民館内
- 日 時/毎月第1・3火曜日 9:30~11:30
- 対 象/誰でも利用できます。(事前申し込み不要) ●参加料/無料

これからも、広報誌で順次「地域ぐるみの居場所」を紹介します。ご意見をお寄せ下さい。

## いしづの

## 歴史



## 再発見

Vol.4

### 七軒衆による石津の開発

広報誌第2号に少し書きました石津七軒衆について今回は書いてみたいと思います。

古代、東海道はふたつのコースがあったといわれている。平安時代の『延喜式』によると中央集権国家を実現するために道の整備を行ったが、その道は郡家を結ぶ伝馬のコースと駅家を結ぶ早馬のコースがあり、前者は平常普通の旅行の時に用い、後者は緊急・大事な時に用いた。遠州ではこの道が大体同じで一本であったが、牧之原台地が上がって

から二つに分かれ、一つは元島田、藤枝、宇津ノ谷峠、丸子、国府に至る道で、伝馬のコースとなり、もう一つは牧之原から初倉駅家、小川駅家、花沢、日本坂を超えて横田駅(静岡市)に至る道で古代の大事な緊急の道に隣接して石津があったことは容易に想像され、千年以上前から石津があったことは間違いないと思われます。このような石津には七軒衆といって旧家が七軒あったと伝えられています。

この七軒は、石津の氏神社である八幡宮を建立したときに、個人の財産や田畑を出し合った家であるといわれています。その七軒は伝承者によって多少の異同はあるが、それぞれのシマの中で総本家といわれるような旧家があげられます。まず本田では八木家(モンベエ)・平田家(ジューザエモン)、新田では吉田家(スケザエモン)・宮島家(キチエモンあるいはヨシエモン)、向では小林家(ゼンザエモン)・石崎家(シンヤ)、下島では小池家(オクヤ)などである(括弧内は屋号)。また、北川原の小長谷家、下島の丸山家、新田の石田家なども名をあげられる家々である。これらの総本家に代表される同族の家はイトーといい、その中では遠州から移り住んだという八木イトーが最も古いともいわれています。このような旧家による開発伝承は、その後、近世の庄屋・名主といった村役人の名の中にも見出され、石津の歴史の中で何らかの功績があった特定の個人名が屋号になって残っていき、ムラの中での実力者として生き続けることになっていきます。

[参考文献:石津の民俗(静岡県史民俗調査報告書第18集)]

シリーズ①

# 防災減災のための家庭で出来ること

## ▶ 家具などの置き方

- 家具の下敷きにならないために  
…家具の固定、後ろ壁に傾ける
- 分離型家具類は上下を固定する
- 観音開き食器棚には気を付ける  
…ストッパーの取り付け
- ドアと窓のそばには家具を置かない
- ガラス飛散防止フィルムを貼る
- キャスター付テレビ台等家具類は  
ストッパーをつける
- 薄型テレビも壁や台に固定
- ピアノは1階に置く
- 額縁ガラスは、アクリル板にする
- 本棚ばかりでなく本も固定する
- CD、DVDなどは引出しにしまう
- 寝室には、高い家具は置かない
- 電気冷蔵庫は重量があり、固定が  
難しいので、天井と冷蔵庫の間に  
隙間をつくらない

8月総合防災訓練に積極的に参加しよう。

8月30日(回)は、静岡県・焼津市・藤枝市の共催で総合防災訓練が行われます。



\*次回は…  
「役に立つ防災グッズ」

## 港第14自治会 古紙回収ステーションにおけるこれまでの成果

地域の皆様からの強い要望により設置しました「古紙回収ステーション」(12月10日・石津コミュニティ防災センターと、八幡宮の間の通路内)は、下記の通り毎月の搬入量は徐々に増加しています。ここ1年～2年の間に、古紙の回収量が急激に減少し、それに伴い各町内会の運営財源としての分配金が減少しています。その要因として、他方面への古紙の流出です。各町内会への分配金が増加するよう財源確保に向け、今後、古紙回収ステーションをさらに浜地区に設置する事も考えております。

これからも地域の皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。現在、焼津市内38の自治会の中で、港第14自治会の古紙等資源回収実績は4位です。

地域をあげて、是非古紙回収1位をめざしましょう。

**不燃・資源収集日と同様に、「自治会古紙回収ステーション」を是非ご利用下さい。**



月別	H26.12月	H27.1月	2月	3月	4月	計
搬入量(kg)	820	2,740	1,450	2,230	3,150	10,390
売却額(円)	6,905	22,490	12,195	18,560	30,110	90,260

※古紙数量1キロにつき、市からの助成金が2円加算されます。  
 $10,390 \text{キロ} \times 2 \text{円} = 20,780 \text{円}$   
 $20,780 \text{円} + 90,260 \text{円} = \mathbf{111,040 \text{円}}$ …4月末までの売却額です。



【参考】  
平成27年4月～9月までの古紙買取価格  
回収量1kg当たり

古紙種別	新聞紙	タペール	雑誌	雑紙	古着
買取価格	9.0円	8.0円	7.5円	7.5円	1.0円
市助成金	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円

## 交通事故削減を目指して

…飲酒運転を根絶しよう…

平成26年は、交通死亡事故はなかったものの、人身事故(加害事故)は、57件でした。また、飲酒運転は、4件発生して、市内の18自治会(3,000人以上)で「ワースト1」と大変残念な結果となりました。

平成27年は、「交通事故の削減」と「飲酒運転の根絶」を目指して、地域の皆様と一体となった早朝の交通立哨、交通安全教室の開催等、交通安全のための諸活動を通して、地域の交通安全意識の高揚を図りつつ交通事故削減と飲酒運転の根絶を目指しています。今後とも諸活動に積極的に参加して頂きますようご協力をお願い申し上げます。

交通安全教室を9月13日に開催します。多数参加下さい。



### 小川交番 防犯情報

#### みなさん大丈夫ですか “詐欺の被害” “二セ電話で100万円など”

今年3月と4月に焼津市内で「国民健康保険の還付金」や「あなたのキャッシュカードを他人が持っている」との二セ電話で口座振り込みやカードを渡して、現金を騙し取られる被害がありました。

詐欺師は、色々の方法でお金を騙し取ろうと狙っています。

おかしいと疑問を感じたときは、騙される前に、交番又は警察署に相談してください。

★小川交番 ☎623-1636 ★焼津警察署 ☎623-0110



港第14自治会・町内会ふれあい交流

第8回グランドゴルフ大会

2月21日(土)石津浜海岸公園で、76名が参加し開催しました。男子の部、優勝 吉田周一様、準優勝 木村隆祐様、3位 宮島金男様

女子の部、優勝 大石とし様、準優勝 長谷川秀子様、3位 大石美津子様がそれぞれ入賞しました。



ファミリーバドミントン大会

2月15日に開催しました「ファミリーバドミントン大会」は、優勝 11町内会 準優勝 2町内会 第3位 7町内会でした。



優勝 第11町内会



準優勝 第2町内会



第7町内会

水天宮大祭 屋台引き回し

毎年4月5日に行われる水天宮大祭の前段に、各町内の多くの人達が祭りを盛り上げる行事として、引き継がれてきている祭りです。

今年は、3月28日に、第4・5・6町内の親愛会と、第7町内の親盛会が屋台に花ぼろを飾り町内の引き回しが盛大に行われました。



第4・5・6町内会

シリーズ①

懐かしいあの時代  
私の思い出アルバム

投稿お待ちしております!

小川漁港の賑わい

昭和50年代初めのころの小川漁港

小川漁港は、東海一の鯖の水揚げ港として全国に名をとどろかせていましたが、昭和40年後半から近海カツオの取り扱いに力を入れ、昭和50年代に入ると鮮魚及び加工の業者も多いので、相場も下支えが効くことから、徐々に全国からの入港船が増え始め、県下では沼津・御前崎と肩を並べるようになり、50年代の後半には水揚げ金額は78億円に達し、水揚げ金額はピークに達しました。

初夏になると、近海カツオの水揚げが朝の2時ころから始り、終わると鯖船の水揚げがあり、順番待ちの船で港内は溢れ、船も斜め付で3回、4回と付け替えて水揚げをし、120メートルの魚市場では処理できずに、北岸壁や中堤防に水揚げをしました。多いときは、水揚げ船50隻、水揚げ量800トン位に達し、市場内は活気にあふれ、足の踏み場もないくらいで、セリの声と仲買人の出荷作業の喧騒に明け暮れ出荷作業が夜中までかかり、市場前は交通渋滞が起き、外港を建設する一因にもなりました。そして、平成元年魚市場を外港に移転しました。

7町内会 佐藤正樹さん提供



ゆっくりひとときを過ごす浜行き

水天宮の前浜によこたう石津浜の渚で一日ゆっくりと遊ぶ風習を「浜行き」と地元では呼び、戦前から引きつがれ、盛んなころは棧敷や茶店でにぎわい、藤枝・岡部・大井川方面からも多く訪れていました。

昭和60年代、中学校の先生方とPTA役員の方々の親睦会の会場は石津浜の海岸でした。

7町内会 丸山昭夫さん提供



ワンポイント豆知識 シリーズ4

その昔、豊漁から生れた黒はんぺん

黒はんぺんの歴史については、文献があまり残されていないため確かなことは分かっていませんが、江戸、明治時代には、駿河湾を漁場とする漁師が鰯や鯖をすり鉢ですってお湯にいれて加工したのが始まりともいわれています。また、江戸時代の羽倉簡堂の著「駿城記」には徳川忠長が駿府城主のころ、家来の戸田半平が初めて作って差し上げたので「半平」と名づけられたとか「鱧平」とも書き、音が訛ったのだらうとも紹介されています。

鮮度が売り物の「はんぺ」ともいわれている黒はんぺんは、現在、静岡県内で主に作られています。焼津産にいたっては、市内業者(兼業含め7社)が独自の製法で作られており、全国シェア約80%の生産高を誇っています。いまや、焼津特産として300年以上の伝統をもつ郷土色豊かな食品です。

黒はんぺんの原料となる鰯や鯖の魚肉には鉄分、カルシウム、ビタミンA、タウリン、DHA、EPAなどなど皆さんがご存知の栄養素がそのまま入っています。

栄養満点な「はんぺ」を色々な調理で毎日の食卓をかざってみませんか。(取材協力：焼津蒲鉾商工業協同組合)

## 大いに利用下さい！ 石津コミュニティ防災センター

石津コミュニティ防災センター（略称：石津コミセン）は、平成4年3月に総事業費2億1,100万円をかけて建設され、この機に地元一般寄付金5,000万円が寄せられ完成しました。施設の運営は、港第14自治会が行い、その資金は地域住民の皆様からの防災センター運営管理費と施設貸出料金によって成り立っています。

設立目的は、東海地震発生が危惧される中、自主防災組織活動を中心とした防災訓練など、防災知識の普及の場として、また有事における応急活動の拠点機能を備えた地域住民主導による自主防災の積極的活用、或は緊急避難ビルとしての活用施設です。

平常時には、一般の方々の活動の場として利用頂ける多目的な部屋が設けられ、趣味や子供たちの学習の場、事業所（企業）の皆様には各種（新人教育など）研修、会議、その他、講習会等に利用されています。特に、本格的な厨房設備を備え、料理自慢の皆様には、ぜひ利用していただき、互いに振る舞いながらの井戸端会議でもいかがでしょうか、音楽好きの方々にはレコード・CDの鑑賞会もお勧めします。皆様のアイデア次第で楽しく利用できます。

尚、自治会として、当センターの将来的な活用方法の一環として居場所づくり（何時でも、誰でも、何にでも）に於ける場所提供の可能性も検討して行きたいと考えています。

〈施設使用問合せ：080-5103-1444〉



おめでとうございます

### 第4町内会の甲賀二録さんに 功労賞がおくられました

平成27年5月17日、シーガルドームにおいて、特定非営利活動法人焼津市体育協会より、長年にわたり焼津市体育協会、およびゲートボールの発展に尽力されている甲賀二録さん（92歳）に功労賞が贈られました。

ゲートボールを始めて27年、会員35名の仲間とともに毎日を楽しんでいる甲賀さんは「健康のためにも多くの人に参加してほしい」と語っていました。



## 平成27年度 港第14自治会の主な行事

月別	主な行事内容
4月	定期総会、自治会別無事故無違反コンクール、古びな人形回収、緑の羽根募金
5月	春季河川側溝等清掃、春の交通安全運動、地域対抗玉入れ大会、社協負担金協力、防災機器・防犯灯点検
6月	水防演習、日赤社費募金、ゴミ減量説明会、町内ドッチビー大会、広報「みなといしづ」第4号発行、世帯家族調べ、日赤救急短期講習会、地域対抗ファミリーバドミントン大会、ニューススポーツ講座
7月	市政座談会、夏の交通安全運動、夏季河川・海岸清掃、地域対抗ペタンク大会、木屋川ポート事業
8月	旧盆精霊送り、総合防災訓練
9月	まちをきれいにする運動、第45回体育大会、交通安全教室、秋の交通安全運動
10月	地域対抗ドッチビー大会、港公民館まつり、町内交流ペタンク大会、赤い羽根募金、
11月	国勢調査、地域対抗メディシンボール・綱引き大会、広報「みなといしづ」第5号発行、やいづビーチクリーン清掃、ふれあいゲートボール大会
12月	地域防災訓練、歳末助け合い募金、年末の交通安全運動
1月	自主防災会出初式、焼津市消防団出初式
2月	市スポーツ賞授与式、町内交流ファミリーバドミントン大会、グランドゴルフ大会、広報「みなといしづ」第6号発行
3月	津波避難訓練、役員改選、防災センター運営委員会

\* 毎月10日交通安全立哨 \* 自主防災定例会(奇数月開催)

### シリーズ3 ご存知ですか『海岸巡視員』

平成23年度まで「ビーチサポーター」という駿河海岸の旧大井川町地先の海岸の環境面や施設の状況等を海岸管理者（国交省）に情報を提供する方がいましたが、これを発展的に解消して、平成24年度より「海岸巡視員として、焼津市が、小川港突堤から大井川左岸まで（漁港、港湾施設を含まず）の区間を委託して、日常的な巡視を行うことで、海岸施設の破損などの早期発見や不法投棄の抑制などの災害防止や環境保全に寄与することを目的に活動されています。現在は、石津から飯淵までの約9.3kmの区間に16人の方々に委託しています。概ね一人が受け持つ海岸線の延長は、580m位で週2回の巡視をし、一ヶ月毎に状況を焼津市河川課に報告書として提出されています。

因みに、石津地先の海岸巡視員は、第4町内会の若梅吉秀さんをお願いしています。

### 編集後記

盛大に開催しました「石津海岸公園 完成 春の集い」を皆様の協力により、今回は特集として紹介しました。今年、45回を数える伝統的行事・体育大会をはじめ地域ぐるみの行事等を通じて、更なる自治会の連帯を強め、住みやすい第14自治会をめざし広報啓発に努めてまいります。

皆様から、「懐かしいあの時代のいしづ」「ホットな地域の話題」等をぜひ各町内会長様までお寄せ下さい。「いしづの居場所」は、今後も順次紹介します。

次号（第5号）は11月です。お楽しみに。

広報委員／大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也  
竹本忠利 安倍孝至 平田 厚



# みよこ いづが

第 5 号

### 港第14自治会世帯数・事業所数

H27.10現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	623	35	7町内会	220	2
2町内会	451	6	8町内会	58	11
3町内会	137	16	9町内会	180	2
4町内会	62	5	10町内会	183	17
5町内会	76	1	11町内会	261	9
6町内会	76	0	12町内会	76	4

世帯数計2,403 事業所数計108



7月

港地区まちづくり推進会主催  
第21回木屋川ボート大会



8月

小川小学校避難所における  
第13自治会との合同役員防災研修

## 近隣地域との連携 さらに深めて



9月

第45回体育大会



10月

ふれあい交流ベタシク大会

## 体育大会とお祭りに思う

港第14自治会 会長 丸山昭夫

自治会の最大行事であります体育大会は、9月20日、好天に恵まれ無事終わりました。

45年間行われてきた体育大会に、私は体協や自治会役員等として、丁度20年間関わらせていただきました。今回は、大変嬉しかったことがありました。

まず、焼津市長が初めて開会式にご参加いただいたこと、そして、入場行進は、例年の3倍の参加者であり、各町内会の、どのテントの中も満員状態だったことでした。

祭りの秋を迎え、先日、招待を受けて、初めて大井川利右エ門の八幡宮の祭典に参列しました。

この八幡さんのお祭りは、以前から伝統色のある賑やかなお祭りだと聞いておりましたが驚きました。

神社が大きく実に立派でした。そして、祭典には、拝殿に入れ切れない程大勢の役員、祭りの主役達が参拝していました。まさに、地域をあげてお祭りがおこなわれている感じです。何百年も続く祭り、と、半世紀の体育大会とを一樣に論ずることは出来ませんが、役員任せとせず、みんなが支え協力し盛り上げていく。その後には、必ず喜びがあり、そして、明日への確かな「地域力」が生まれることは共通していると実感しました。

## 秋晴れの下、焼津市長を迎えて

# 第45回第14自治会 体育大会に1500名が爽やかなふれあい

12の町内会が総力をあげて結束し、守り続けてきました、伝統ある「第45回第14自治会体育大会」が、“深めよう 地域の絆 14自治会”のスローガンのもと、9月20日(日)、港小学校グラウンドで、中野弘道焼津市長を迎えて開催しました。 終日、秋晴れの好天に恵まれ、応援する市民、そして、体育委員会の検討協議をもとに、誰もが参加しやすい13のふれ合い交流競技種目に参加した市民が、町内を超えて、程よい緊張感とさわやかな汗と笑顔が会場いっぱいには漂っていました。 来賓の皆様方からは、第14自治会地区住民が一つにつながった見事な「総住民力発揮」と尊いお言葉をいただきました。 開会に先立ち、綱引き部門において、平成16年度から平成26年度まで10年間連続優勝の第2町内会に第45回大会を記念して特別表彰が授与されました。 総合優勝は3連覇の第7町内会、二位 第12町内会 三位 第2町内会でした。 町内対抗リレーは接戦の上、優勝は第2町内会、惜しくも二位は第12町内会でした。 綱引きは、見事に第2町内会が11連覇を果たしました。



### 町内ふれあい交流大会

ドッチビー、ベタンクは動き（早さ、遅さ）は違っても、高齢者から小学生まで年齢を問わず、いっしょになって楽しめるスポーツです。是非皆さんも一度楽しんでみてはいかがでしょうか。

#### 6月21日 日 ドッチビー大会

成績順位は  
優勝：第2町内会  
準優勝：第7町内会  
3位：第12町内会



#### 10月11日 日 ベタンク大会

成績順位は（男子の部）  
優勝：第5町内会  
準優勝：第8町内会  
3位：第4町内会・第12町内会



成績順位は（女子の部）  
優勝：第4町内会  
準優勝：第1町内会  
3位：第7町内会・第8町内会



## 8月 総合防災訓練 大雨警報で中止を惜しむ

8月30日(日)の焼津市・藤枝市を主会場とする静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練は、悪天候と大雨警報が発表になり訓練の大部分が中止となりました。

当初の計画では、港第14自治会は、小川港におけるヘリコプター（静岡県消防防災航空隊・オレンジアロー）を使用した溺者救出訓練、住民等自治会関係者が見学水上の状況などを実際に見て、溺者の意識の有無を確認し、救出される者の安全性の確保等貴重な訓練見学が予定されていただけに、大変残念であったとの声がありました。

### ● 近隣自治会との連携による初めての訓練は12月6日に延期

一方、小川第13自治会と港第14自治会が初めて合同で実施する「小川小学校体育館避難所運営訓練」も中止となりました。 両自治会の防災役員等関係者は、事前協議を積み重ね、早朝より小川小学校に集結し、準備をしていました。

会場では、急きょ、自治会・自主防役員等関係者約50名による研修に切り替え、小川第13自治会が作成したパワポイントによる避難所訓練の要点（避難所運営要領）等の説明を受けて確認をしました。

### ● 訓練中止からの教訓を今後に活かす

大雨警報が発表され防災訓練は中止になりましたが、いかなる気象状況下の地震も十分に考えられます。 雨合羽などの雨具も防災の持ち出し品に加えておく必要があります。 いつ来るかわからない大地震・大津波に対して、誰もが避難生活をおくることになるかも知れません。 重要な訓練を積み残しておくことはできません。 12月6日(日)に予定されている「焼津市地域防災訓練」では、其々の町内会等で訓練内容は検討されますが、小川小学校体育館での「避難所運営訓練」は改めて実施し、そこで見つかった問題点、課題等を港小学校、石津コミュニティ防災センター等の避難所運営に活かしていくことになります。



シリーズ②

## 防災減災のための家庭で出来ること

### ▶ 備えあれば憂いなし！ やっておくこと(備蓄)、用意するもの(非常持ち出し)

災害時に困らないために自助として、備蓄しておくものと非常時持ち出すものを整理し、手に持ってパッと飛び出せるように、持ち出し品は最小限にまとめて置きましょう。

細かなものは、落ち着いてから取りに戻ればよい。但し、大津波が発生して流失することもあり、津波が来ないこともありますので、備えておくことは大事です。以下に例示していますが、自分や家族のライフラインとなるものを季節なども考えて準備しておきましょう。 例えば、

- |          |          |          |            |                     |
|----------|----------|----------|------------|---------------------|
| ①ポリタンク   | ⑦ラップ     | ⑬下着類     | ⑲手袋(軍手)    | ⑳トイレットペーパー          |
| ②ブルーシート  | ⑧ごみ袋     | ⑭防寒着類    | ⑳予備乾電池     | ㉑ライター               |
| ③簡易トイレ   | ⑨応急処置グッズ | ⑮リュックサック | ㉑カイロ       | ㉒預金通帳<br>(キャッシュカード) |
| ④カセットコンロ | ⑩常用薬     | ⑯懐中電灯    | ㉒ラジオ(電池電源) | ㉓印鑑                 |
| ⑤飲料水     | ⑪乳幼児用グッズ | ⑰常備薬     | ㉓ガムテープ     | ㉔マスク                |
| ⑥非常食     | ⑫お年寄りグッズ | ⑱生理用品    | ㉔現金        | など                  |

## 古紙回収ステーションが増えました！

岡地区(石津コミュニティー防災センター駐車場内)に引き続き、浜地区の古紙回収ステーションが11月から港第11町内会自主防災倉庫横(港公民館駐車場内)に設置されました。ご利用ください。

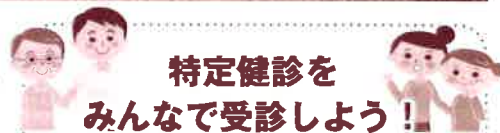


### 第12町内会のお話

### 北川原のお地蔵さん

今年も8月16日に、蔵珠院の和尚さんによる読経で、北川原のお地蔵さんの供養が執り行われました。区画整理により、平成21年9月に北川原公会堂の新築移転に合わせ、お地蔵さんも一緒に公会堂前に移転設置されました。

お地蔵さんは、元々は北川原地区北西部にあった火屋場において奉られ、明治時代より地域の共同墓地として、地域の部農会が中心となり150年余管理引き継がれています。「お地蔵さん」も茶畑の中から、住宅の中に引っ越して戸惑っていると思いますが、現在では、町内会の行事として執り行われています。新たな地域の発展と共に、引き継がれているこの北川原の伝統行事を、新しい形で後世にしっかりと引き継いでいかなければなりません。



### 特定健診を

### みんなで受診しよう！

焼津市の「特定健診」は、40歳以上の国民健康保険加入者が市内40ヶ所の指定医療機関において自己負担1,000円で受診できる健康診断です。

焼津市の受診率は県内32自治体中29位で、特に40～50歳代は最下位です。また、この地区は、市が管理する26地区中、21位の低受診率です。特定健診を早期から受診して健康寿命延伸を心掛けましょう。

### いしづの歴史

### 家康公と石津

### 再発見

VOI.5

今年徳川家康公没後400年にあたります。そこで今回は「家康公と石津」について書いてみたいと思います。徳川家康は75年の生涯のうち、浜松・駿府と今の静岡県内にいたのは通算43年にわたり、実に人生の3分の2近くを静岡県内で過ごしています。このため焼津にも家康にまつわる伝承や伝説が数多く残されており、石津には熊右衛門にまつわる言い伝えが残っています。「武田勢と徳川勢が争っていた天正の頃、石津には熊右衛門という身体も大きく勇気ある若者がおりました。熊右衛門が海岸で網を打っていた時、徳川の軍勢が西から小川湊まですみ、対岸に渡ろうとしていました。しかし二、三日来の出水の為、対岸に渡ることが出来ませんでした。そのとき、徳川勢の武士の一人が熊右衛門に気付き、案内を頼み、家康は熊右衛門の肩に乗

せてもらいました。助けてもらった家康が褒美に何を望むか尋ねても、家来になることを勧めても熊右衛門は辞退したので、家康は銀7枚を与えました。」(「小川の流」第三号) この熊右衛門の子孫が向町の小林家で今でも家名が「熊さん」と愛称されているとのこと。また、隠居して大御所となった家康はしばしば、田中城を訪れ、志太平野での鷹狩を楽しんでいたようです。その鷹狩の時は東小川海蔵寺や教念寺を休憩場所にしていたようで、駿国雑誌の記事によれば、一色村の良知熊右衛門は「みだらけ」と呼ばれ家康にはたいそう可愛がられ、鷹狩りにはいつもお供をしていた。と書かれています。この様に私達が今暮らしている石津の地で400年前家康は鷹狩りを楽しみ駆け回っていたのではないのでしょうか。また、この良知家は今も存続し、当主は県会議員を務めています。

このように石津も家康公とたいへんゆかりの深い土地だったのです。

[参考文献:「焼津市史 民俗編」「石津共栄会誌」]

## 7月各町内会で お津島さんにぎやかに

石津の各字ごとでは津島神社を祀って、「お津島さん」とよばれて親しまれています。この津島神社の総本社は愛知県津島市にあり、津島神社より勧請を受けた神社は東海地方を中心に日本全国に約3千社あるといわれています。津島神社は疫病、災厄除けの神様として広く信仰を集めていました。この石津地区は大井川の扇状地にひらけた土地で湿地が多く、昔は疫病がよく流行った土地といわれています。この様な疫病除けや人々の健康を祈願し、各字毎に「お津島さん」を祀り、除疫神として広く人々の信仰を集め、大事に守られてきたとおもわれます。石津地区には「お津島さん」が全部で7カ所あり、1町内は八幡宮、2町内は向町（宝性殿）集会場、3町内は前の川橋の袂、4.5.6.7.8.11町内の港町を含む浜地区は水天宮、10町内は雁橋と下小路蔵珠院駐車場横、12町内は北河原の公会堂にそれぞれ祀られています。また、毎年7月14日には提灯まつりとして社前にホーズキ提灯を並べて吊り、神事を行ってきましたが、今では14日の前の日曜日に行っており、今年も7月12日の日曜日に各お津島さんで盛大に行われました。子供の生まれた家ではその子の名前を記した提灯を奉納し、子供の無事な成長を願うものです。嫁に出た家でも、実家のお津島さんに生まれた子の提灯を奉納するといわれています。昔は疫病除けで人々の健康を願い、今は生まれてきた子供達の健康とすこやかな成長を願う地域のすばらしい伝統行事の「お津島さん」を我々はいつまでも守っていききたいものです。



7月12日に水天宮境内のお津島さんで行われた提灯まつり

## 石津から 安全をつなげ広げて 事故ゼロへ 港第14自治会交通安全教室開催

9月13日(日)、港公民館において、焼津警察署の警察官、交通安全指導員を招き、自治会員177名の参加で「平成27年度港第14自治会交通安全教室」を開催しました。

丸山会長は、自治会住民4,360人署名の交通安全宣言署名書を焼津警察署長に提出し、住民の交通事故防止に対する強い決意を示しました。

参加者は、交通事故の発生状況や交通事故防止のための注意点、自転車の通行方法等について説明を受け、改めて交通事故の怖さ、恐ろしさ、悲惨さを痛感するとともに、交通ルールを守ることの重要性を再認識しました。



## シリーズ② 懐かしいあの時代 私の思い出アルバム 投稿お待ちしております！

## 昭和30年代初めごろの 石津沖での大敷網

大敷網は大型の定置網で、沿岸を移動してくるブリ・アジ・サバ・サワラ・イカ・タチウオなどあらゆる魚類を対象にしたものです。地先に垣網を長く伸ばして魚群の進路を絶ち、沖に敷設した網の本体部分に誘導して捕えるものです。網船に乗った十数名の漁師がだいたい朝晩の定時に網を繰り上げて捕獲しました。石津では戦前から始まりましたが、これは伊豆は伊東の宇佐美から来た人達による指導で始まったものであるといわれています。この写真は石津沖での大敷網の様子を網船から撮ったものと思われる。



(写真提供：第11町内会 植村悦也さん)

## 第35回 港公民館まつり (10/24・25)に「自治会 活動紹介コーナー」誕生



## 小川交番 防犯情報



石津地区を受持つ  
小川交番交番長の  
山本です。



最近、発生している犯罪は、  
【のそき犯の出没】ご家庭の風呂場など窓の開放には十分注意してください。  
【乗り物盗、車上狙いの出没】自転車、オートバイの駐輪時、自動車の駐車時は必ずキーロックをお願いします。  
※不審な人を見かけたら、直ぐ警察に通報をお願いします。

★小川交番 ☎054-623-1636 ★焼津警察署 ☎054-624-0110

## 編集後記

平成27年度の広報誌発行は、年3回（6月8ページ、11月4ページ、2月4ページ）となりました。出来る限り、身近な話題を皆さんに提供できるよう、自治会三役をはじめ各町内会長等の全面的なご理解とご支援をいただき、広報委員会委員が全力投球しています。今回は、秋晴れの中、伝統ある第45回体育大会をはじめ、防災訓練参加のあり方、ストップ・ザ交通事故を主に取り上げました。

広報に関すること、地区内の話題提供は、ぜひ、各町内会長様までご一報よろしくをお願いします。

次号（第6号）は2月です。お楽しみに。

広報委員／大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也  
竹本忠利 安倍孝至 平田 厚